

2021年度

事業概要

南部地域療育センターそよ風

南部地域療育センターそよ風

通園部「子ども像」

いのちを守り、いのちをつよくする子ども
ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
ときどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
人とともに育ちあえる子ども

相談診療部「理念」

「児童憲章前文」

児童は、人として尊ばれる
児童は、社会の一員として重んぜられる
児童は、よい環境の中で育てられる

私たちは、この「児童憲章前文」の精神を大切に、次のことを目指します。

生命と人権の尊重

- ・子どもたちの一人一人の生命をかけがえのないものとして大切にします
- ・子どもの人権を守り、最善の利益を追求します

家族や地域とともに

- ・子どもや保護者から学び、ともに育ちあう関係を大切にします
- ・地域の機関、組織と連携し、子どもや家族が地域で豊かに生活できることを目指します
- ・社会に目を向け、協働して現状の変革に努めます

療育の追求

- ・子どもが主体的に生きることを大切にします
- ・あそびや生活を豊かにし、人と関わる力を育てます
- ・豊かな人間性と、科学的な視点を持ち、療育の専門性を追求します

はじめに

2020年は新型コロナに明け暮れた年になりました。

新型コロナウイルス緊急事態宣言が発令された2020年4月16日より前の2月28日から6月1日まで、全国の教育機関に対し一斉休校要請が発出され、コロナワクチン接種の普及は遅れ、子どもの運動会は中止なのにオリンピックは開催されそうな混乱した状況ですが、このまま大人へのワクチン接種だけで流行が抑えられるのか予測は難しい状況です。

初めての事業概要の「はじめに」に何を書けばよいか迷った挙句、ふさわしくなさそうな、昨年読んだ数少ない本に「スウェーデンの保育園に待機児童はいない」久山葉子 著 東京創元社 の話を選びました。

「移住して分かった子育てに優しい社会の暮らし」の話で、保育内容に興味のある方はぜひ読んでいただけるといいと思います。

0歳から保育園に預けられていて、発達が気になってそよ風に受診してくる子どもをみて、どうしたものかと悩んでいるところで、この本を読んだため、紹介したいのはスウェーデンの保育事情です。

この本によるとスウェーデンの産前産後休業は480日あり、基本週5日労働のため、96週間、約1年10月ある。しかも両方の親が育児休業を取得するよう、片方の親が取得できるのは390日までとなっていて、母親が390日取得すると、残りは父親が取得する。休業中の390日は元の収入の80%弱（ただし1日当たり約1万円の上限がある）、残りの90日は約2000円となる。また復職した後の有給休暇（正社員は5週間！）に加え、「子どもが病気になって、仕事を休まなければならない」日には子どもが12歳になるまで1年につき120日！まで利用でき、やはり1日当たり給料の80%弱が支払われる。

従ってスウェーデンには0歳児保育はなく、1歳から申し込んでから4か月以内に保育園に入れることが保証されているとのこと。す。す。（コロナ流行前の話なので、現状はどうなっているのかはわかりませんが）

保育関係者には怒られるかもしれませんが、1歳までは家族が子どもさんをみていられるように、産前産後休業の充実を考えてというのは無理なのではないでしょうか？

2021年6月

南部地域療育センターそよ風

所長 外園 芳美

目 次

第 1 施設の概要	1
1. 施設の目的	1
2. 設置運営	1
3. 施設構成	1
4. 法人の経緯	1
5. 建物の概要	3
6. 事業の概要	3
(1) 事業の種類	3
(2) 担当地域	3
(3) 組織・職員体制	4
(4) 相談の流れ	5
第 2 発達相談事業	6
1. 新規相談	6
2. 発達検査および発達相談	11
(1) 新規相談児童の発達検査	11
(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談	11
(3) 検査結果	12
3. 療育グループ	13
(1) 就園前グループ	13
(2) 就園前グループアフターのつどい	18
(3) その他の就園前グループ	18
(4) 並行グループ	19
4. 保護者向け学習会	23
(1) 年長児保護者向け学習会	23
第 3 医療事業	24
1. 診 療	24
(1) 小 児 科	24
(2) 整 形 外 科	29
(3) 耳 鼻 咽 喉 科	31
(4) 精 神 科	33
(5) 検 査	34
(6) 診断書等発行	34
2. 訓 練	35
(1) 理 学 療 法	35
(2) 作 業 療 法 (OT)	38
(3) 言 語 聴 覚 療 法 (ST)	41
(4) 生 活 支 援	44
(5) 保 護 者 向 け 学 習 会	46
(6) 音 楽 療 法 (MT)	46

第4 通園事業	48
1. 施設概要	48
(1) 定員	48
(2) 対象児童	48
(3) クラス編成	48
(4) 通園形態	48
(5) 親子通園の種類	48
(6) 通園バス	48
2. 療育内容	48
(1) 子ども像	48
(2) 療育の視点	48
(3) 療育計画	50
3. 家族援助	54
4. 見守り一時支援	55
5. 2020年度のまとめ	56
6. 児童の状況	57
第5 地域ケア事業	59
1. 地域連絡調整	59
2. 巡回療育指導	60
3. 訪問療育指導	61
4. 通園部アフターケア	62
5. アフターケア	63
6. そよ風広場	64
7. 兄弟プログラム	64
8. 施設・プール開放	64
9. 地域啓発・ボランティア育成	65
第6 児童デイサービス	66
1. デイサービス ACT (児童発達支援事業所)	66
2. デイサービス ACT (放課後デイサービス)	67
3. みどりそよ風 (児童発達支援事業所)	67
4. みどりそよ風 (放課後等デイサービス)	68
第7 障害児相談支援事業所	69
資料 センター利用者数の10年間の推移 (2011年度～2020年度)	71
平面図	74

第1 施設の概要

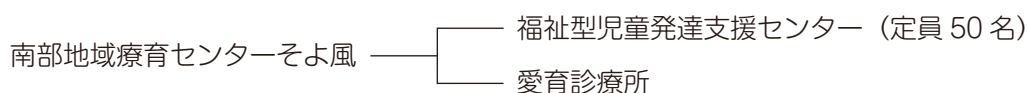
1 施設の目的

南部地域療育センターそよ風は、障害のある子ども、発達遅れや育ちに不安のある子ども等地域のすべての子どもの成長、発達を支援する。同時に、地域のなかで障害児とその家族があたりまえに暮らすための地域生活支援を行うことを目的に、通園事業、医療（訓練）事業、発達相談事業、地域ケア事業、生活支援事業、専門事業をすすめる。

2 設置運営

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館

3 施設構成



- ・ 保険医療機関指定
- ・ 生活保護法医療機関指定
- ・ 公害医療機関指定
- ・ 指定自立支援医療医療機関指定
- ・ 運動器リハビリテーション（Ⅰ）基準承認
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）基準承認
- ・ 障害児（者）リハビリテーション基準承認 等

4 法人の経緯

1961年 3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館設立
1961年 4月	社会館保育部認可
1966年 4月	心身障害幼児の通園施設「愛育園」開設
1973年 4月	「愛育園」（知的障害児通園施設、定員 30 人）認可
1987年 3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館「将来構想」策定
1989年 7月	名古屋市「地域療育センター構想検討会報告書」策定
1992年 2月	「南部地域療育センター建設計画」策定
1996年 4月	「南部地域療育センターそよ風」竣工
1998年 10月	障害児（者）地域療育等支援事業
1999年 4月	自立訓練ホーム・レスパイトケア開始
2000年 3月	名古屋キリスト教社会館第二次将来計画 21 世紀福祉プラン策定
2000年 9月	自立ホーム のどか、うらら開始（無認可）
2001年 4月	「南・緑生活支援センター のどか」開始
2002年 4月	グループホーム「のどか」「うらら」認可
2002年 7月	障害児者地域生活支援センターみなみ開始

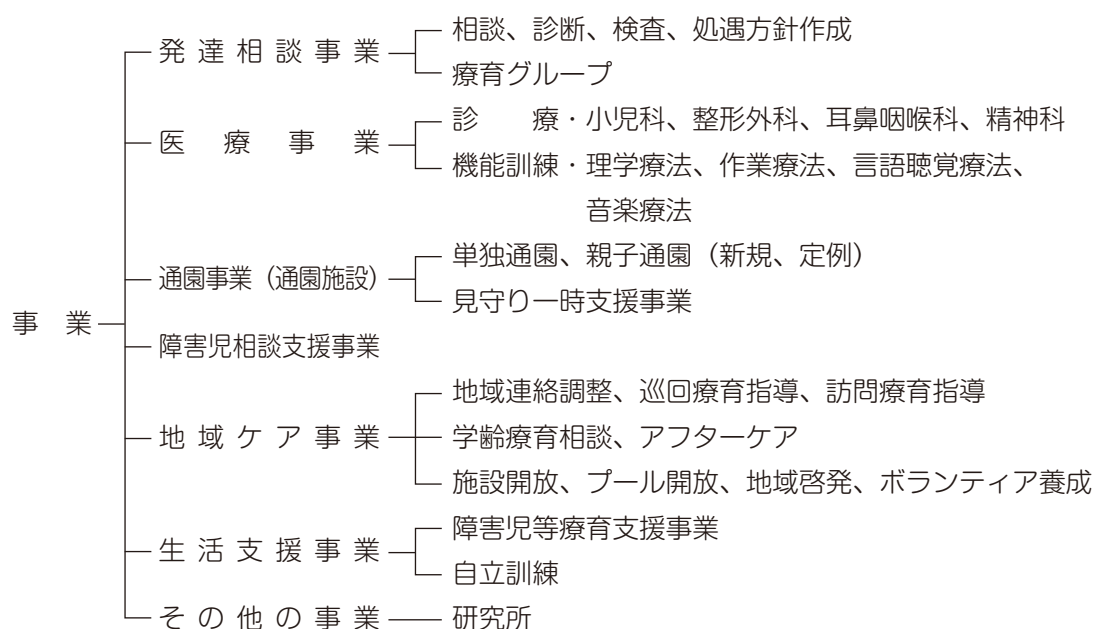
2003年 1月 「生活支援センターぴぼっと」開始
 2003年 4月 支援費制度開始
 知的障害児通園施設 名古屋市立あつた学園 名古屋市より運営移管
 「発達センターあつた」開始
 知的障害児通園施設 名古屋市立ちよだ学園 名古屋市より運営移管
 「発達センターちよだ」開始
 児童デイサービスちよだ開始
 児童デイサービス ACT 開始 グループホーム「天歩」開始
 2003年 6月 子どもセンターみどり開所 児童デイサービスみどり開始
 2004年 6月 児童デイサービスあつた開始
 2006年 4月 障害者自立支援法施行
 2006年 6月 ケアホーム「ホームしゃかいかん」開始
 2006年 10月 障害者自立支援法本格施行に伴う児童福祉法の改定により通園施設が契約制度に
 2007年 4月 事業体系移行にともない生活介護事業開始 定員 20 名
 2009年 8月 社会館「生活支援センターぴぼっと」竣工
 2010年 7月 「名古屋キリスト教社会館 東館」開所
 2010年 8月 東館 2 階 療育グループ専用室確保
 2010年 9月 社会福祉法人名古屋キリスト教社会館 創立 50 周年
 2011年 3月 ケアホーム 5 か所目「いっぽ」開始
 2012年 10月 相談支援事業所ぴぼっと開所
 2012年 12月 みどり菜の花保育園開所
 2013年 3月 子どもセンターとくしげ開始
 2013年 5月 児童発達支援事業所 みどりそよ風 開所
 2013年 7月 障害児相談支援事業所 そよ風
 障害児相談支援事業所 あつた
 障害児相談支援事業所 ちよだ
 2014年 4月 「社会館障害者基幹相談支援センター」(コンソーシアム) 開所
 2014年 6月 「東部地域療育センターぽけっと」開所
 2016年 4月 多世代交流西館開所。南部地域療育センターそよ風 通園部
 定員 50 名に変更
 2019年 4月 生活支援センターぴぼっと西館開所

5 建物の概要

敷地面積	敷地 3,066.35㎡
構 造	本館：鉄筋コンクリート造 3 階建 東館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階部分 西館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階一部
規 模	建築面積 延べ床面積 本館：1,751㎡ 東館：236.47㎡ 西館：163.89㎡
併設施設	・菜の花保育園（定員 170 人） ・デイサービス友（定員 25 名） ・名南ユースセンター ACT ・デイサービス ACT ・小規模多機能つどい ・子育て支援センターなのはな

6 事業の概要

(1) 事業の種類



(2) 担当地域

事業区分	担当地域
発達相談事業 医療事業 地域ケア事業 通園事業	南区、緑区

〈参考〉

人口、面積（2020年4月1日）

	名古屋市	南区	緑区	2区合計	
人口（人）	2,324,877	135,478 (5.8%)	247,515 (10.6%)	382,993 (16.5%)	
児童人口	0～5歳	111,533	5,602 (5.0%)	14,591 (13.1%)	20,193 (18.1%)
	0～17歳	334,494	17,475 (5.2%)	45,132 (13.5%)	62,607 (18.7%)
面積（km ² ）	326.45	18.45 (5.7%)	37.85 (11.6%)	56.32 (17.3%)	

第2 発達相談事業

1 新規相談

2020年度はコロナの影響で子どもを取り巻く社会もが大きく変化した。3月～5月は、幼稚園の休園や保育園の自粛対応、子育て支援センターが開催中止となったり接触を減らすなどの対応で行われた。また、保健センターでは4～6月乳幼児健診が中止となった。7月から再開するも3か月健診は医療機関委託となり、他の健診は3～4か月ほど遅れで実施された。健診後のフォロー教室（乳幼児発達相談集団）もほとんど中止となる事態となった。保育園・幼稚園では子どもの様子を捉えて紹介するまでに時間がかかったり、健診の3～4か月遅れの余波としては、3歳児健診を受けられないまま就園する年少児が増えた。今年度はこのようなコロナの影響を踏まえて実績を吟味する必要がある。

当センターの新規相談希望者は10年ほど前から増加傾向にあり、相談内容は発達障害に関連するものが多い。2020年度の4～5月は緊急事態宣言に対応して初診枠を減らし、6月以降は予約を通常どおりに戻して実施した。初診者数は前年度に比べ微減にとどまった。1.2歳児初診では、保健センターの健診から直接当センターに紹介されるお子さんも多くおり、初診時の年齢は例年より低くなっている。

当センターでは「気になる段階からの支援」を主眼とし、「必要な子どもが」「必要な支援を」「必要な時期に」受けられるように初診やその後のフォローの在り方を構築してきた。2017年度から1.2歳児を通常の初診とは違う方法で行い、2020年度は4年目になった。2020年度はそれらの評価を行い、今後の方法の検討をしてきた。

名古屋市は、「今後の名古屋市早期子ども発達支援体制に関する方針」を定め、2020年度7月から東部地域療育センターで「地域支援調整部門」が導入された。当センターでは2021年7月から地域支援調整部門の一部である初診前サポート事業を実施することになった。

- ・新規相談は、1週間に通常初診を4ケース、1.2歳児受付初診は7ケース、合診は1ケースを実施した。年間の初診受診者総数は422人で、内訳は通常初診151人、1.2歳児受付初診235人、合診36人である。1.2歳児受付初診は55%をしめている。1.2歳児受付初診児の235人のうち在園児は105人で44%である。
- ・3歳での初診人数は減り、南区の初診人数も減っており、緑区の2歳ケースは増えている。紹介経路では、保健センターからの総数は変わらないが、南区は前年度よりも減り、緑区は低年齢化している。
- ・障害種別や診断区分の“自閉症”は前年度に比べ減っているが、診察の目的を診断よりも相談へシフトしているためである。
- ・1.2歳児受付初診は、当日に発達検査を行わないため、障害種別は「未決定」とした。障害種別と診断区分に未決定が多いのはこのためである。
- ・1.2歳児受付初診は235人中約7割に自閉症スペクトラムの特性がみられた。
- ・2017年度以降1.2歳児受付初診受診者のうち発達外来に至った者は以下のとおりである。受付初診の約半数がその後の診察を受けている。
- ・再診率は例年に比べ、かなり増えている。今年度の段階で約半分が再診へつながっている。

受付診察後、診察に至ったケース数

(2020年度、単位：人)

初診年度	受付初診 総数	診 察 再 診 数				合計	%
		2017	2018	2019	2020		
2017	221	54	40	9	12	115	52
2018	213		69	34	17	120	56
2019	220			47	48	95	43
2020	235				116	116	49

表2-1 区別状況

(2020年度、単位：人)

区	就 学 前 児 童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
南区	1	12	38	21	17	16	6	111	26.3
緑区	11	36	112	76	37	31	6	309	73.2
港区			1		1			2	0.5
計	12	48	151	97	55	47	12	422	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表2-2 名古屋中央療育センター・地域療育センターの相談歴

(2020年度、単位：人)

	緑区	南区	計
名古屋中央療育センター			
北部地域療育センター	1		
東部地域療育センター	1		
計	2		2

表2-3 主訴(症状)別状況

(2020年度、単位：人)

主 訴	就 学 前 児 童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
言語発達		14	90	43	16	10	3	176	41.7
知的発達				2	5	4	2	13	3.1
運動発達	2	12						14	3.3
全体発達	10	11	12	7	5	3		48	11.4
性格行動		11	49	45	29	30	7	171	40.5
計	12	48	151	97	55	47	12	422	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表2-4 センターへの紹介経路

(2020年度、単位：人)

紹介機関	就学前児童							小学生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年		
保健センター	3	25	107	57	16	13			221	52.4
医療機関	8	14	17	6	4	2	1		52	12.3
保育園		2	15	23	18	14	5		77	18.2
幼稚園			2	6	6	5			19	4.5
認定こども園					1				1	0.2
学校							1		1	0.2
地域療育センター						1			1	0.2
児童相談所					1	1			2	0.5
児童福祉施設		1	1						2	0.5
いこいの家			1						1	0.2
知人			4	1	2		2		9	2.1
家族		1	2	2	3	2	2		12	2.8
その他	1	5	2	2	4	9	1		24	5.7
計	12	48	151	97	55	47	12	0	422	100

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) その他はインターネットなどである。

表2-5 障害種別状況

(2020年度、単位：人)

障害種別	就学前児童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
知的障害	5	2		3	4	3		17	4.0
自閉症		2	2	17	27	25	5	78	18.5
自閉症+知的障害			1	8	3	1		13	3.1
肢体+知的障害	1							1	0.2
肢体不自由	2	2	2					6	1.4
言語発達障害等			1	4	20	18	5	48	11.4
重度心身障害		1		1				2	0.5
その他	4	12	1	2	1			20	4.7
適正							2	2	0.5
未決定		29	144	62				235	55.7
計	12	48	151	97	55	47	12	422	100

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) 言語発達障害等には境界域、ADHD、吃音を含む。

(3) その他には、保健・性格行動を含む。

(4) 未決定は、発達検査が未実施のため障害種別が確定されていないものである。

表 2 - 6 診断区分別状況

(2020 年度、単位：人)

診断区分		就 学 前 児 童						計	%	
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳			6 歳
知的障害	ダウン症候群	4			2			6	1.4	
	水頭症			1	1			2	0.5	
	てんかん	1	1		1	1		4	0.9	
	知的障害	2	1		1	4	3	11	2.6	
自閉症			2	3	25	30	27	5	92	21.8
言語発達遅滞					2	7	5	1	15	3.6
構音障害						3	2	2	7	1.7
吃音					1	1	2		4	0.9
知的障害+脳性麻痺			1						1	0.2
脳性麻痺+知的障害					1				1	0.2
脳性麻痺		2	2						4	0.9
その他神経疾患				1					1	0.2
中枢性協調障害					1	1			2	0.5
境界域						3	2	1	6	1.4
多動症				1	1	5	6	1	14	3.3
正常域								2	2	0.5
整形外科疾患			3	1					4	0.9
未決定			29	144	61				234	55.5
その他		2	8						10	2.4
その他の症候群		1	1						2	0.5
計		12	48	151	97	55	47	12	422	100

注) (1) 年齢は初診時の満年齢である。

(2) その他は運動発達遅滞である。

(3) 診断区分は複数の診断名がある場合、主たる 1 つの診断名が属する区分で計上した。

(4) 未決定は、発達検査が未実施のため、診断区分が確定されていないものである。

表 2-7 処遇方針作成状況

(2020 年度、単位：件)

処遇方針	就 学 前 児 童							計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	
経 過 観 察	2	2				16	11	31
発 達 相 談	32	82	160	100	55	31	1	461
P T 訓 練	8	12	2					22
O T 訓 練				2	12	7	1	22
S T 訓 練			3	5	11	13	3	35
摂食機能訓練	1	4	1					6
就園前グループ	11	34	117	18	1			181
並行グループ				9	9	5	1	24
通園施設方向		2	3	7	1			13
他 機 関 紹 介	1	1	1	1		1		5
いこいの家		1						1
計	55	138	287	142	89	73	17	801

- 注) (1) 年齢は初診時の満年齢である。
 (2) 件数は 2020 年度新規相談者に対し、その年度内に処遇方針を作成した数である。
 (3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。
 (4) 「経過観察」は「発達相談必要時」と同義である。

2020 年度 南区・緑区・港区通園希望者

区	就 学 前 児 童						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
南 区		3	10	2			15
緑 区	1	6	11	2	1		21
港 区							0
計	1	9	21	4	1	0	36

- 注) 年齢は 2020 年度の学年齢である。
 進路先内訳 南部地域療育センターそよ風 24人
 発達センターあつた 7人
 待機児 5人

表 2-8 処遇方針追加変更状況

(2020 年度、単位：件)

処遇方針	就 学 前 児 童						小学生 低学年	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳		
発 達 相 談	1	2	1					4
P T 訓 練		1	2	2	2	1	1	9
O T 訓 練			2	14	36	12		64
S T 訓 練		1	3	18	43	25		90
就園前グループ	1	13	21	2				37
並行グループ			2	7	14	2		25
通園施設方向		8	10	2	2			22
他 機 関 紹 介			2	1	2	1		6
転 居 終 了	1	2	7	3	6	3		22
計	3	27	50	49	105	44	1	279

- 注) (1) 年齢は学年齢である。
 (2) 件数は該当年度に処遇方針を作成した数である。
 (3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。

2 発達検査および発達相談

(1) 新規相談児童の発達検査

表 2-9 初診の状況 (発達相談)

(2020 年度、単位：人)

区	就 学 前 児 童							計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
南 区		10	29	34	19	17	6	115
緑 区	1	25	96	89	37	30	6	284
港 区			1		1			2
合 計	1	35	126	123	57	47	12	401

注) 初診時の検査および初回受付診察後(199)、合診後の初回相談を含む。
年齢は初診時の満年齢である。

(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談

・継続時のフォロー状況(延べ人数)は1033人。(前年度は1010人)

表 2-10 継続相談児童のフォロー状況

(2020 年度、単位：件)

区	就 学 前 児 童						小学生	計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳		
南 区		9	55	68	76	107		315
緑 区	2	22	85	182	239	174	1	705
港 区			1	2	5	5		13
合 計	2	31	141	252	320	286	1	1033

注) 年齢は継続相談時の学年齢である。

・来所回数 (単位：人)

回数	人 数	割 合
1 回	589	73.4%
2 回	201	25.1%
3 回	10	1.2%
4 回		0.0%
5 回	1	0.1%
6 回		0.0%
7 回	1	0.1%

実人数 802 人

(3) 検査結果

表 2 - 11 年齢別検査結果

(2020 年度、単位：人)

検査数値	就 学 前 児 童						小学生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
20 以下		2	3	3	4	4		16	2.0
21～35		3	4	3	8	9	1	28	3.5
36～50		4	12	24	23	12		75	9.4
51～75	1	9	41	50	41	29		171	21.3
76 以上	1	10	56	117	166	162		512	63.8
計	2	28	116	197	242	216	1	802	100

注) 年齢は学年齢である。

表 2 - 12 障害別検査結果

(2020 年度、単位：人)

障害種別	1度	2度	3度	4度	非該当	計
	20以下	21~35	36~50	51~75	76以上	
知的障害	4	13	31	33	6	87
自閉症		13	43	105	330	491
言語発達障害等				8	75	83
肢体不自由			1	4	3	8
重心	12	2				14
聴覚						
視覚						
適正					2	2
その他(保健)				3	16	19
未決定				18	80	98
計	16	28	75	171	512	802

注) 愛護手帳は非該当だが、知的障害の診断の子どもが6人いる。

いずれも直近の発達検査でDQがわずかに75を上回ったケースであるが、診断名は知的障害のままである。

3 療育グループ

(1) 就園前グループ

- ・発達に不安のある就園前の子どもを対象に親子教室を実施した。そよ風にて、ぐんぐん教室 8 グループ、緑区の子どもセンターみどりにてぴよんぴよん教室 3 グループ、子どもセンターとくしげにてにこにこ教室 3 グループを実施した。次年度参加予定のプレグループは 3 か所で 3 グループをそれぞれ実施した。2020 年度は、合計 17 グループ・202 組の親子が利用した。

表 2 - 13

(2020 年度、単位：人)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	合計	並行利用
2011 年度	11 (1)	75 (1)	111 (18)	3		200 (20)	0
2012 年度	14 (1)	86 (6)	131 (22)	6 (2)	1	238 (31)	4
2013 年度	13	108 (6)	130 (37)	3 (2)		254 (45)	3
2014 年度	13	90 (10)	152 (26)	3		258 (36)	8
2015 年度	15 (2)	88 (9)	134 (25)	7 (4)		244 (40)	19
2016 年度	11	84 (2)	127 (27)	5 (2)		227 (30)	17
2017 年度	8	71 (5)	118 (29)	6 (2)		203 (36)	19
2018 年度	6	69 (2)	124 (17)	5 (5)		203 (23)	17
2019 年度	5	49 (2)	108 (12)	5		167 (14)	14
2020 年度	4	74 (2)	119 (12)	5 (2)		202 (16)	21

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) () 内は途中終了児 (再掲)

・グループ運営について

- ・0・1・2 歳児で、発達に不安のある子どもたちについて、全員受付初診後にグループの受け入れを行った。4、5 月はコロナ感染拡大の状況下のため、グループが休止になっていた。電話連絡をする中で、子どもや保護者の状況をとらえてきた。また、4 月から開始予定だった子どもたちを対象に、5 月から個別療育を行った。6 月から運営再開となったが、例年通りの受け入れでは、感染予防が不十分になることが見込まれたため、各グループの受け入れ人数を、おおむね半数とし隔週での実施とした。
- ・進路の状況や、グループ参加状況をふまえ、個人懇談を実施し、参加する中での目標や参加期間を保護者とスタッフとで確認した。
- ・保育園や幼稚園に通いながらグループを利用する親子が、今年度は 21 組在籍した。ぐんぐん教室 14 組、ぴよんぴよん教室 4 組、にこにこ教室 3 組が参加した。全体数に対しての割合としては、例年と大きく変わらない。(約 1 割)
- ・今年度は『兄弟保育ボランティア』は実施できなかった。
- ・療育内容は、1 歳児グループ、2 歳児グループ、ひよこさぎグループに分けて計画を立て、それぞれに合わせたとりくみを行ってきた。隔週実施になるため、例年行っている行事やとりくみなど、やれないことがあった。一方、例年より小集団になることで、子どもにも保護者にも丁寧に関わることができた。進路指導では、頻度が少ない分、保護者とスタッフが意見をすり合わせてすすめていくことに難しさがあった。内容面では、これまでも大切にしているように、低年齢のうちに親子で一緒にあそぶなかで、保護者が子どものことを理解し、伝えられることを目標にしている。そのため、保護者自身も楽しみながら参加できるよう、声掛けをしたり、とりくみを工夫したりしてきた。

① 就園前グループ実施状況

表2-14

(2020年度、単位:人)

グループ名	実施状況	対象児童	0歳	1歳	2歳	3歳	合計	職員体制
ぐんぐん教室(そよ風東館)	かば AB	月曜日* (6月から開始)			17 (1)	2 (1)	19 (2)	保育士2(パート1) 心理1
	かば C	月曜日* (10月から開始)			6		6	保育士2(パート1) C W1
	らいおん AB	火曜日* (6月から開始)			21 (4)		21 (4)	保育士4(パート2)
	ぞう	火曜日・月2回 (11月から開始・午後)			8		8	保育士2 指導員2 心理1
	きりん AB	水曜日* (6月から開始)			17 (2)	1 (1)	18 (3)	保育士4(パート2)
	くま	木曜日・月2回 (5月から開始)		9			9	保育士3(パート1)
	りす	木曜日・月2回 (8月から開始)		9			9	保育士2 心理1
	ひよこ うさぎ AB	金曜日* (6月から開始)	早期に障害が発見され、知的障害、肢体不自由、重複障害を伴う子ども。	3	13	5	21	保育士2 指導員1 C W1 心理1 看護師1 PT1
	プレ	3/15	次年度グループ参加予定の子ども。		6		6	保育士2 指導員1
子どもセンター(ぴんぽん教室)	ひまわり	火曜日・月2回		6			6	保育士1(パート1) 指導員2
	ばら	火曜日・月2回		8 (2)			8 (2)	保育士1(パート1) 指導員2
	たんぼぼ AB	木曜日*			13 (1)		13 (1)	保育士2(パート2) 指導員2
	プレ	① 3/18 ② 3/19	次年度グループ参加予定の子ども。	1	10		11	保育士1 指導員2
子どもセンター(こっこ教室)	あしか AB	月曜日* (6月から開始)		6	7 (1)		13 (1)	保育士2(パート2) 指導員2
	ぺんぎん AB	水曜日* (6月から開始)			12 (1)	2	14 (1)	保育士2(パート1) 指導員2(パート1)
	らっこ AB	金曜日* (8月から開始)			13 (2)		13 (2)	保育士3(パート2) 指導員1
	プレ	① 3/16 ② 3/17	次年度グループ参加予定の子ども。		7		7	①保育士1 指導員1 ②保育士1 指導員2
合計			4	74 (2)	119 (12)	5 (2)	202 (16)	

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) () 内は途中終了児(再掲)

(3) 曜日の右に*のついているグループは、通常であれば週1回の実施であったが、コロナのため、密をさけるために、1グループの人数を半数にして、それぞれ2つのグループに分けて隔週実施とした。

② 療育目標

- ・子どもの要求を大切に、興味を広げ、意欲的に生活し、あそぶ力を育てる。
- ・親子あそびを通して、お母さんと一緒に楽しくあそぶ経験を積んでいく。
- ・食事・排泄・着替えなどの基本的な生活習慣の自立を家庭と共に考えあう。
- ・生活基盤、生活リズムの確立を通し、健康な身体づくりをすすめる。
- ・姿勢、運動面への働きかけと、見る・聴く・触れるなど感覚への働きかけを大切にする。

③ 日 課

子どもの24時間の生活リズムを家族と共に考え、日課づくりを行った。

ぐんぐん・ぴよんぴよん・にこにこ教室の日課

9:45	登室 健康チェック表記入(コロナ対策) 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:15	おはようのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび・体操 排泄
10:35	とりくみ (子どもの要求・発達・ 親子のあそびを考慮)
11:00	おやつ
11:15	さようならのつどい 紙芝居・絵本の読み聞かせ さようならのうた

ひよこ・うさぎグループの日課

9:45	登室 健康チェック表記入(コロナ対策) 自由あそび・連絡ノート受け渡し 問診・体調確認
10:20	おはようのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび
10:35	とりくみ (子どもの要求・発達・ 親子のあそびを考慮)
11:00	おやつ
11:30	さようならのつどい 紙芝居・絵本の読み聞かせ さようならのうた

④ 年間行事

表2-15

4月		10月	
5月		11月	
6月	就園学習会	12月	クリスマス会
7月	七夕	1月	お正月の遊び
8月		2月	節分
9月		3月	

・例年行っていた行事を、隔週実施のグループが中心のため、中止した。(家族遠足等)

表 2 - 16 就園前グループ障害種別状況

(2020年度、単位：人)

障 害 種 別	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
知 的 障 害	2	10	4	1	17
肢 体 不 自 由		2			2
肢体不自由 + 知的障害		2	1		3
自 閉 症		17	22		39
自閉症 + 知的障害		4	17	3	24
言 語 発 達 障 害		3	9		12
重 心			3		3
そ の 他 保 健	1	3	4		8
未 決 定	1	33	59	1	94
計	4	74	119	5	202

注) 年齢は、学年齢である。

表 2 - 17 就園前グループ別状況

(2020年度、単位：人)

区	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
南 区		15	32	2	49
緑 区	4	58	86	3	151
港 区		1	1		2
計	4	74	119	5	202

注) 年齢は、学年齢である。

表 2 - 18 就園前グループ月別在籍人数 (延べ数)

(2020年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初の数	25	25	55	77	94	104	125	137	150	157	162	162
月末の数	25	55	77	94	104	125	137	150	157	162	162	42
新入児の数	0	30	23	17	10	24	18	16	8	5	1	24
終了児数	0	0	1	0	0	4	6	3	1	0	1	144

⑤ グループ健康会議

ひよこ・うさぎグループを中心に、子どもの健康状況のとらえを共有することを目的に、小児科医師・看護師・保育士・指導員により、年2回、健康会議を実施した。また、会議の中で、健康や障害についての学習会を行った。

表2-19 就園前グループ月別参加人数(延べ数)

(2020年度、単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
ぐんぐん教室	かば AB			20	16	21	16	22	18	20	9	19	12	173
	かば C						8	10	11	5	11	6	51	
	らいおん AB			21	26	24	22	20	19	23	24	19	11	209
	ぞう								14	13	7	8	42	
	きりん AB			14	24	20	22	22	26	16	23	22	11	200
	くま			10	13	11	13	19	14	9	12	15	8	124
	りす					1	10	10	9	13	11	5	6	65
	ひよこ・うさぎ AB			21	17	15	22	30	28	25	25	23	18	124
	個別療育(東館)		17											17
	プレ												6	6
ぴよぴよん教室	ひまわり			3	6	9	3	9	9	8	7	5	5	64
	ばら						7	4	6	9	10	11	5	52
	たんぼぼ AB			6	11	8	14	19	18	15	18	13	9	131
	プレ											11	11	
にこにこ教室	あしか AB					4	10	14	19	22	12	24	11	116
	ぺんぎん AB			15	22	17	21	22	21	17	22	22	11	190
	らっこ AB			11	12	8	14	18	15	20	15	15	8	136
	個別療育(子どもセンターとくしげ)		16											16
	プレ											7	7	
計		33	121	147	138	174	217	212	222	206	211	153	1824	

表2-20 就園前グループ進路先状況(延べ数)

(2020年度、単位:人)

進 路 先	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	計
通 園 施 設		5	19	1	25
公 立 保 育 園		2	13【12】		15【12】
民 間 保 育 園	1	7	10【8】	2【2】	20【10】
公 立 幼 稚 園			5		5
民 間 幼 稚 園		2	52	1	55
認 定 こ ど も 園		2	10【5】		12【5】
グ ル ー プ 継 続	2	35			37
みどりそよ風		8			8
デイサービス ACT	1	4			5
児童発達支援事業所		1	1		2
転 居		2	1		3
途 中 終 了		3	6	1	10
終 了		3	1		4
そ の 他			1		1
計	4	74	119【25】	5【2】	202【27】

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) 【 】内は障害児保育の数(再掲)

(2) 就園前グループアフターのつどい

2020年度は、コロナ感染拡大の状況下のため、例年行っているアフターのつどいは中止した。現況をとらえるための往復はがきを送り、返信してもらった。(91 通中 48 通返信あり)

(3) その他の就園前グループ

① 子育て教室

- ・早期受診児や、健康面・家庭状況でグループに参加できない児を対象に子育て教室を開催している。
- ・4月、5月コロナのため開催見合わせ。6月より感染対応しつつ開催した。
- ・対象児は16名であった。(4名は未参加。2名の状態等で参加が難しく訪問療育とし、2名は入院・受診、都合により参加できなかった。)
- ・療育グループへの移行は、4名であった。
- ・今年度は、初診時1歳前後の運動発達遅滞の児が多かった。
- ・1999年度より開催してきた子育て教室は今年度で終了とし、次年度からは重心児等のグループと運動発達の遅れの児のグループを分けて実施する方針。

表2-21 子育て教室参加状況

(2020年度、単位：件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
組(親子)			3	4	6	7	5	6	4	5	8	5	53

表2-22 子育て教室参加児年齢(開始時)

(2020年度、単位：人)

月	0~6ヶ月	7~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	計
組(親子)		7	8	1		16

表2-23 児童の状況

(2020年度、単位：人)

区分	ダウン症	知的障害	運動発達遅滞	後天性要因による運動障害	その他の先天性障害	脳性運動障害	その他	計
実人数	5		5		5	1		16

表 2 - 24 区別状況

(2020 年度、単位：人)

区 分	0~6 ヶ月	7~12 ヶ月	1 歳	2 歳	計
南 区	0	0	4	0	4
緑 区	0	7	4	1	12
合 計	0	7	8	1	16

注) 年齢は満年齢である。

(4) 並行グループ

- ・並行グループ（さんさん教室）は 2 週に 1 度のグループをそよ風東館にて、7 グループ実施した。子どもセンターとくしげでは月 1 回土曜日に 1 グループを通年で実施した。合計 8 グループを実施した。
- ・コロナ感染拡大の状況下のため各グループともに、4,5 月は休止しており、6 月からの実施となった。そのため、例年は前半グループ 10 回、後半グループ 10 回の実施としているが、前半グループ 10 回、後半グループ 8 回の実施とした。
- ・グループ編成は基本的には年齢、障害、発達状況、家庭状況を考慮した。
- ・3 歳児の子どもたちは体力面を考慮し、例年後半期(10 月～)からの実施としてきた。しかし、低年齢からの入園が増えたことに伴い、ニーズが出てきたことと、早期に入園しているので、子どもたちも集団参加の経験があることを踏まえ、2019 年度より 4 月からの前半グループも実施し、2020 年度も同様とした。
- ・保護者の希望、園の先生の紹介とつながってくるケースもあり、親子の支援はもちろん、園との連携や支援も課題となっている。

① 並行グループの実施状況

活動時間は、そよ風では 14:30~16:00、子どもセンターとくしげでは 10:00~11:30。

表 2 - 25

(2020 年度、単位:人)

実施状況		対象児の障害		3歳	4歳	5歳	計	療育目標	職員体制
そ よ 風	へりこぶたー 第1・3・5火曜 (6~10月)	ADHD	DCD		5	3	8	・取り組みを通して 達成感を味わい、 自信につなげてい く。	保育士 2 C W 1 指導員 2
	しんかんせん 第2・4火曜日 (6~10月)	ASD	DCD	1	6		7		・体や手先の使い方 を知っていく。
	ひこうき 第1・3・5木曜 (6~10月)	ASD	DCD		3	3	6	・友だちとあそぶ楽 しさを知る。	保育士 2 指導員 2 心理 1
	ばす 第2・4木曜 (6~10月)	ASD	DCD	4	3 (1)		7 (1)		保育士 2 指導員 2 心理 1
	ひこうき 第1・3火曜 (11~3月)	ASD	MR	4	4 (1)		8 (1)		保育士 2 指導員 2 C W 1
	ろけっと 第1・3木曜 (11~3月)	ASD	ADHD		6		6	保育士 2 指導員 2 心理 1	
	よっと(後半) 第2・4木曜 (11~3月)	ASD	MR	5			5	保育士 2 指導員 2 心理 1	
		DCD	社会性コミュニケーション障害						
こ の こ ら	きしゃ 月1回土曜 (6月~3月)	ASD	DCD		4	2	6	保育士 2 指導員 1 心理 1	
合 計				14	31 (2)	8	53 (2)		

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) () 内は途中終了児(再掲)

② 日 課

各グループの状況、とりくみ内容によって日課を変えている。

子どもセンターとくしげのさんさん教室の時間は（ ）内。

さんさん教室の日課

14:30 (10:00)	登室・健康チェック (コロナ対策として) 自由遊び(描画、パズルなど) 連絡ノート受け渡し
15:00 (10:30)	こんにちはのつどい ・スケジュール確認 呼名 とりくみ① おやつ とりくみ② おわりのつどい ・シール貼り
16:00 (11:30)	さようなら

表2-26 並行グループ障害種別状況

(2020年度、単位:人)

障害種別	3歳児	4歳児	5歳児	計
知的障害	2	1		3
自閉症+知的障害	9	8	1	18
自閉症	3	18	5	26
言語発達障害等		1	2	3
未決定		3		3
計	14	31	8	53

注) 年齢は、学年齢である。

表2-27 並行グループ区別状況

(2020年度、単位:人)

区	3歳児	4歳児	5歳児	計
南区	3	3	3	9
緑区	11	28	5	44
計	14	31	8	53

注) 年齢は、学年齢である。

表2-28 並行グループ在籍児の所属園

(2020年度、単位：人)

区 分	3歳児	4歳児	5歳児	計
公立保育園	2	2	1	5
民間保育園	7	9	2	18
公立幼稚園	1	2		3
民間幼稚園	4	11	3	18
認定子ども園		6	2	8
その他		1		1
計	14	31	8	53

表2-29 並行グループ月別在籍児数(延べ数)

(2020年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初の数			0	34	33	33	33	13	24	23	24	24
月末の数			34	33	33	33	13	24	23	24	24	0
新入児の数			34	0	0	0	0	11	0	1	0	0
終了児数			0	1	0	0	20	0	1	0	0	24

表2-30 並行グループ月別参加人数(延べ数)

(2020年度、単位：人)

グループ名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
さ ん さ ん 教 室	ば す			12	10	5	9	10						46
	へりこぶたー			22	12	13	15	6						68
	しんかんせん			13	8	12	10	10						53
	ひこうき(前半)			11	11	8	6	7						43
	よ っ と								8	6	8	4	5	31
	ろ け っ と								6	9	9	9	6	39
	ひこうき(後半)								6	11	10	10	5	42
	き し ゃ			6	6	6	6	6	6	6	6	5	6	59
計			64	47	44	46	39	26	32	33	28	22	381	

表 2 - 31 並行グループ終了状況

(2020 年度、単位：人)

区 分		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計
小 学 校	通 常 学 級			2	2
	特別支援学級・学校				
グ ル ー プ 継 続		6	13		19
終 了		8	18	6	32
不 明					
計		14	31	8	53

③ グループ見学会

2020 年度は、コロナ感染拡大の状況下のため、例年行っているグループ見学会の実施は見合わせた。

4 保護者向け学習会

(1) 年長児保護者向け学習会

昨年度はコロナウイルスの感染拡大の状況下にあったため、実施していない。

第3 医療事業

1 診療

2020年4月から、所長が交代した。小児科(常勤1名 非常勤2名)、整形外科(非常勤週2回)、耳鼻咽喉科(非常勤週1回)、精神科(非常勤月1回)による診療を行っている。看護師は常勤3名、(うち1名は通園部に勤務)、非常勤1名である。保健師は常勤1名で、主にケースワーカー業務を行っている。

診療の中で発達相談事業の初診は、2020年4月から週3日行っている。

検査としては、脳波検査または聴性脳幹反応は週1回、自覚的聴力検査週1回、他覚的聴力検査(ティンパノメトリー、DPOAE)週1回、X線検査は月2回実施している。

(1) 小児科

① 新規患者について

- ・ケースワーカーによる問診(合診は看護師かケースワーカー)、発達相談員による発達検査を経て、小児科医師による診察という経路が基本であったが、2017年度から早く療育につなげる必要があるケースについて、問診後、発達検査を省いて小児科医による診察につなげる1.2歳児受付初診を開始した。1.2歳児初診後は、発達検査に先行して在宅児にはまず療育グループへの参加を勧め、後日、発達検査を実施、その後再診という経路で発達相談を行っている。
- ・新規患者数(表2-1);昨年と比べやや減っている(432→422)。
- ・障害種別(表2-5);初診422人中、1.2歳児初診が235人(55%)あり、その種別を未決定に分類している。初診数から未決定を除くと自閉症の割合は48.7%であった。

② 小児科発達外来(表3-1)

- ・昨年と比べて延べ人数(563→749)、実人数(474→613)ともに増えている。発達相談後の再診が増えているためと考えられる。

③ 小児科定期診察

- ・通園児(表3-4)

昨年と比べて延べ人数は半減(162→80)、実人数は不変(27→27)である。これは身体的に安定している児の再診回数を減らしたことによる。

- ・ひよこグループ・あいあい組(表3-5)

グループ所属の1人当たり年1回の定期診察を行った。

④ 小児科一般外来(表3-2)

- ・延べ人数(110→80、実人数(59→44)ともに減少している。これはコロナ流行時、かぜ症状のある児は、そよ風の利用を控えていただいたことも影響していると思われる。
- ・長期投薬数(表3-3)

小児期の神経発達症に伴う入眠困難に効果を持つ「メラトベル」が処方可能となり、処方した児を含め6→8となった。

⑤ 早期療育会議

CW、看護師、PT、療育グループ職員により月2回開催。

合診を経過した児の状況を把握し、支援の方針を検討する。子育て教室に参加してもら

い、療育グループへの参加、訪問指導、制度利用の相談に応じている。

⑥ **通園部の健康管理**

- ・ 例年通り、健康学習会（家族向けに季節の病気、発達や障害などの学習）、毎日の健康チェック、重症児の医療的ケア、健康診断（年2回）、必要性のある児には定期診察、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科受診を勧める。

⑦ **健康会議**

診療部と通園部・療育グループで、子どもの健康の理解を進め、諸行事（宿泊療育など）のときの注意点、単独保育への移行や通園バス乗車の問題点などについて話し合い、意思統一している。

⑧ **看護職の業務**

- ・ 共通業務

(a) **診療や健康診断介助、健康診断報告に関する業務など。**

- ・ 分担業務

(b) **通園部での健康管理**：健康観察と医療的ケア或いはその指導、援助。

2020年度は医療的ケアを実用とする児は4名であった。通園部の看護師、診療部の看護師が、毎日医療支援や健康チェックのため、巡回している。

(c) **訪問療育指導**：重症心身障害児が多い。

(d) **グループ療育**：ダウン症、医療的ケアが必要な児や健康管理が必要な児が在籍するグループには看護師が参加している。0歳児はグループの前段階として「子育て教室」に参加していただくこともある。

(e) 小児科と整形外科の合診の際、問診と発達観察を行っている。

⑨ **その他**

- ・ コロナ対策のため、利用者およびその家族周辺の健康状態を聞き取り、かぜ症状が強くみられる場合は利用を延期していただくこともあった。

表3-1 小児科発達外来再診

(2020年度、単位:人)

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群	9 (4)	7 (3)	4 (4)	7 (5)	5 (4)	5 (5)	1 (1)			38 (26)	5.1 (4.2)
	その他の症候群	1 (1)		1 (1)		1 (1)					3 (3)	0.4 (0.5)
	てんかん	2 (1)		1 (1)		2 (2)					5 (4)	0.7 (0.7)
	知的障害	5 (3)	15 (8)	15 (12)	11 (8)	6 (6)	7 (6)	1 (1)			60 (44)	8.0 (7.2)
	水頭症						1 (1)				1 (1)	0.1 (0.2)
その他神経疾患		2 (2)	1 (1)							3 (3)	0.4 (0.5)	
脳性麻痺+知的障害				1 (1)	4 (2)	4 (3)					9 (6)	1.2 (1.0)
知的障害+脳性麻痺	1 (1)		1 (1)		1 (1)						3 (3)	0.4 (0.5)
脳性麻痺	2 (2)	1 (1)				1 (1)	1 (1)				5 (5)	0.7 (0.8)
整形外科疾患	1 (1)	1 (1)									2 (2)	0.3 (0.3)
急性脳症後遺症	3 (1)	4 (2)		1 (1)							8 (4)	1.1 (0.7)
運動発達遅滞	4 (3)	3 (2)									7 (5)	0.9 (0.8)
中枢性協調障害			2 (2)	1 (1)	2 (2)	1 (1)					6 (6)	0.8 (1.0)
筋ジストロフィー						2 (1)					2 (1)	0.3 (0.2)
自閉症	3 (1)	29 (24)	78 (68)	89 (72)	128 (104)	151 (122)	5 (5)				483 (396)	64.5 (64.6)
多動症			2 (2)		1 (1)	6 (4)	2 (2)				11 (9)	1.5 (1.5)
言語発達遅滞		4 (3)	16 (15)	5 (5)	4 (4)	8 (6)					37 (33)	4.9 (5.4)
構音障害				1 (1)		2 (2)					3 (3)	0.4 (0.5)
吃音				1 (1)							1 (1)	0.1 (0.2)
正常域			1 (1)								1 (1)	0.1 (0.2)
境界域			3 (4)	4 (3)	6 (6)	9 (8)					22 (20)	2.9 (3.3)
学習障害										1 (1)	1 (1)	0.1 (0.2)
その他	1 (9)	9 (9)	15 (15)	6 (5)	5 (4)	2 (2)					38 (36)	5.1 (5.9)
合計	32 (19)	75 (55)	140 (126)	127 (103)	165 (137)	198 (162)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	749 (613)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

表3-2 小児科一般外来

(2020年度、単位:人)

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群			1 (1)		4 (2)					5 (3)	6.3 (6.8)
	その他の症候群					2 (1)					2 (1)	2.5 (2.3)
	てんかん			1 (1)	1 (1)						2 (2)	2.5 (4.5)
	知的障害			10 (2)	1 (1)	2 (2)				1 (1)	14 (6)	17.5 (13.6)
	水頭症					5 (1)					5 (1)	6.3 (2.3)
脳性麻痺+知的障害						2 (1)				2 (1)	2.5 (2.3)	
知的障害+脳性麻痺			2 (1)		4 (1)		3 (2)	3 (3)		3 (2)	15 (9)	18.8 (20.5)
脳性麻痺							5 (2)		1 (1)		6 (3)	7.5 (6.8)
脳炎後遺症											0 (0)	0.0 (0.0)
急性脳症後遺症			1 (1)								1 (1)	1.3 (2.3)
整形外科疾患											0 (0)	0.0 (0.0)
自閉症		1 (1)	2 (2)	4 (3)	4 (3)	6 (3)	2 (2)	7 (1)			26 (15)	32.5 (34.1)
多動症											0 (0)	0.0 (0.0)
運動発達遅滞											0 (0)	0.0 (0.0)
言語発達遅滞			1 (1)								1 (1)	1.3 (2.3)
正 常											0 (0)	0.0 (0.0)
そ の 他		1 (1)									1 (1)	1.3 (2.3)
合 計	0 (0)	2 (2)	6 (5)	16 (7)	12 (7)	19 (9)	10 (6)	10 (4)	1 (1)	4 (3)	80 (44)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

表3-3 長期投薬

(2020年度、単位:人)

診断名	学齢区分						計
	0~2歳	3~5歳	低学年	高学年	中学生	その他	
知的障害・自閉症		3		1			4
自閉症スペクトラム障害	1	2					3
A D H D							0
知的障害/知的障害・脳性麻痺		1					0
その他							1
合計	1	6	0	1	0	0	8

注) (1) 管理数の内訳は、継続3名、新規5名。次年度への継続児は5名。終了は3名。うち2名は他院へ転院、1名は当診精神科へ移管となった。

(2) 主訴は不眠、多動である。

予防接種 (2020年度、単位:人)

ワクチン名	人数
麻疹・風疹	1
水痘	1
計	2

表3-4 小児科定期診察(通園児)

(2020年度、単位:人)

診断区分	就学前児童						計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
知的障害	ダウン症候群			8 (2)	7 (1)	1 (1)	16 (4)	20.0 (14.8)	
	その他の症候群				6 (1)	3 (1)	9 (2)	11.3 (7.4)	
	てんかん			1 (1)	1 (1)		2 (2)	2.5 (7.4)	
	知的障害			5 (2)	7 (3)	12 (2)	1 (1)	25 (8)	31.3 (29.6)
	水頭症						4 (1)	4 (1)	5.0 (3.7)
脳性麻痺+知的障害				5 (1)	5 (1)	4 (2)	14 (4)	17.5 (14.8)	
知的障害+脳性麻痺					4 (1)		4 (1)	5.0 (3.7)	
自閉症				5 (4)	1 (1)		6 (5)	7.5 (18.5)	
脳炎後遺症							0 (0)	0.0 (0.0)	
整形外科疾患							0 (0)	0.0 (0.0)	
筋ジストロフィー							0 (0)	0.0 (0.0)	
合計	0 (0)	0 (0)	5 (2)	26 (11)	36 (8)	13 (6)	80 (27)	100 (100)	

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

*障害種別では「重心」となる児が9名である。

*区分上は自閉症や知的障害となっているが、その他症候群・てんかん・サイトメガロウイルス感染症・視力障害・高度難聴・運動発達遅滞などの疾患を重複している児が含まれている。

表3-5 小児科定期診察（療育グループ等）

(2020年度、単位：人)

グループ名	就 学 前 児 童						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
ひよこ・うさぎG	1 (1)	12 (11)	6 (6)				19 (18)
あいあい組			6 (4)				6 (4)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は学年齢である。

*登録数は、ひよこうさぎで22名、あいあいは4名だった。

(2) 整形外科

- ・新規受診者数44名で、重度の児が減少した。
- ・整形外科の実人数は206名、装具外来受診者数のべ302名、定期診察受診者数のべ223名であった。
- ・通園児の受診数は、55名中30名であった。
- ・今年度、終了数13名（高校卒業児を含む）、PTオーダーは23名（合診から16名・経過フォロー児から7名）。OT再オーダー0名であった。
- ・昨年と同様に靴、椅子、バギーの貸し出しが多くあった。対象となったのは、通園に入園後早急に装具が必要となった児や成長に伴いサイズが合わなくなった児、低年齢で身障手帳取得前だがグループで椅子が必要な児であった。貸し出しで使ってみてからの判断としている。

表3-6 整形外科診断区分別状況（新規）

(2020年度、単位：人)

区 分	就 学 前 児 童							小 学 生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
知的障害												0	0.0
ダウン症候群	5			1								6	13.6
脳性麻痺	2	2										4	9.1
脳性運動障害	1	1		1	1							4	9.1
運動発達遅滞	1	14	1	1								17	38.6
神経・筋疾患						1						1	2.3
骨・関節疾患			1	1								2	4.5
後天性要因による運動障害	1											1	2.3
二分脊椎												0	0.0
その他の先天性障害		1	1									2	4.5
そ の 他		3		2	1	1						7	15.9
合 計	10	21	3	6	2	2	0	0	0	0	0	44	100

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) その他の先天性障害には、染色体異常・症候群等を含む。

(3) その他には、歩容異常・外反扁平足・側弯症等を含む。

(4) 前年度までの区分を見直し、知的障害、ダウン症、脳性麻痺を独立させ、中枢性協調障害を省き、脳性運動障害を診断区分に加えた。

表3-7 整形外科診断区分別状況（装具外来）

（2020年度、単位：件）

区 分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害		2	1								3	1.0
ダウン症候群		4	3	8	5	3	13	11	3		50	16.6
脳性麻痺	1		9	3	20	12	37	14	11	9	116	38.4
脳性運動障害		1		19	5	1	8	1		6	41	13.6
運動発達遅滞		1			5				2		8	2.6
神経・筋疾患									1		1	0.3
骨・関節疾患											0	0.0
後天性要因による運動障害			1		6	5	2			1	15	5.0
二分脊椎											0	0.0
その他の先天性障害		5	7	1		4	4			1	22	7.3
そ の 他		5	11	11	4	7	6	2			46	15.2
合 計	1	18	32	42	45	32	70	30	15	17	302	100

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) 装具外来ののべ受診件数を示した。

(3) その他の先天性障害には、染色体異常・症候群・心疾患等を含む。

(4) その他には、歩容異常・外反扁平足・側弯症等を含む。

(5) 前年度までの区分を見直し、知的障害、ダウン症、脳性麻痺を独立させ、中枢性協調障害を省き、脳性運動障害を診断区分に加えた。

表3-8 整形外科診断区分別状況（定期診察）

（2020年度、単位：件）

区 分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	2	4	3				2				11	4.9
ダウン症候群	8	8	9	7	4	5	5	2	1		49	22.0
脳性麻痺	2		5	1	2	1	21	13	5	8	58	26.0
脳性運動障害	4	1	3	3	4						15	6.7
運動発達遅滞	8	12			2						22	9.9
神経・筋疾患											0	0.0
骨・関節疾患				1	1	2	1				5	2.2
後天性要因による運動障害		3	1		1	2	2				9	4.0
二分脊椎											0	0.0
その他の先天性障害	2	3	5	3	2	1	2	1		4	23	10.3
そ の 他		4	8	7	2	4	3	3			31	13.9
合 計	26	35	34	22	18	15	36	19	6	12	223	100

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) 定期診察ののべ受診件数を示した。

(3) その他の先天性障害には、染色体異常・症候群等を含む。

(4) その他には、歩容異常・外反扁平足・側弯症等を含む。

(5) 前年度までの区分を見直し、知的障害、ダウン症、脳性麻痺を独立させ、中枢性協調障害を省き、脳性運動障害を診断区分に加えた。

(3) 耳鼻咽喉科

- ・当センターの耳鼻咽喉科診療目的は、疾患の早期発見・早期治療、聴覚の管理である。3歳児で再診時に左後天性高度難聴が見つかり、他院へ紹介したケースが1件あった。
- ・正しい聴覚検査の結果を得るには耳垢除去も必要である。当センターでは耳垢除去を新規では30人、継続では47人に行った。
- ・今年度はコロナの予防対策のため、予約枠を制限しながら診察処置を行った。そのため、前年度に比し新規78%、継続63%と共に減少している。
- ・受診児実人数は175名であった。終了78名、そのうち新規での終了は46名であった。
- ・通園児の受診数は、55名中15名であった。
- ・聴検を実施したが、良好な検査結果が得られず、且つ、ティンパノメトリー、OAE共に実施できなかった児に対して、ABRまたは、3歳児健診前後に再検を行うようにしている。

表3-9 耳鼻咽喉科診断区分別状況（新規）

（2020年度、単位：件）

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
難聴の疑い												0	0.0
難聴												0	0.0
滲出性中耳炎						1						1	0.9
耳垢塞栓	1	1	2	1	1	2						8	7.3
言語発達遅滞		11	58	17	5							91	82.7
粘膜下口蓋裂												0	0.0
構音障害				2	2	1	1					6	5.5
正常					1		1					2	1.8
その他・その他の耳鼻科疾患			1					1				2	1.8
計	1	12	61	20	9	4	2	1	0	0	0	110	100

注) 年齢は満年齢である。

表3-10 耳鼻咽喉科診断区分別状況（継続）

(2020年度、単位：件)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
難聴の疑い				3	2						5	4.0
難聴				4	1					1	6	4.8
滲出性中耳炎				1							1	0.8
耳垢塞栓	3	2	2	6	9	3	6	4			35	28.0
言語発達遅滞		8	20	6	2		1				37	29.6
吃音				1							1	0.8
構音障害				1							1	0.8
アレルギー性鼻炎				1	2			5	2	17	27	21.6
その他・その他の耳鼻科疾患				2	8	1		1			12	9.6
計	3	10	22	25	24	4	7	10	2	18	125	100
実人数	1	8	22	11	8	4	3	4	2	2	65	

注) 年齢は学年齢である。

* その他・その他の耳鼻科疾患として上気道炎・急性鼻炎・外耳道炎・外耳湿疹・睡眠時無呼吸症候群・急性鼻咽頭炎があった。

表3-11 聴力検査

(2020年度、単位：件)

区分	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
自覚的聴力検査	B O A			1								1
	C O R		12	66	22	7	4		1		1	113
	Peep-Show				13	11	4	2	2			32
	標準純音聴力検査											0
	プレイオーディオ											0
合計	0	12	67	35	18	8	2	3	0	0	1	146

注) 年齢は満年齢である。

区分	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
他覚的聴力検査	ティンパトリー		6	48	31	13	4	2	3			1	108
	DPOAE			22	17	7	6	2					54

注) 年齢は満年齢である。

検査名	就学前児童						小学生		他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年		
A B R	0	2	6	2	2	0	0	0	0	12

注) 年齢は学年齢である。

(4) 精神科

- ・新規2名、継続6名であった。精神療法、母親カウンセリング、投薬が中心である。
- ・月1回の外来で、枠数7枠で対応しているため、新規受け入れが厳しい状況である。
- ・受診の際は、保護者にアンケート・問診を行い、児に対しても毎月の身体測定・問診と年に1回副作用チェックを行っている。副作用チェックで採血、心電図検査を4人実施した。
- ・強度行動障害を伴う自閉症児の対応で、医療機関や児童相談所と連携をとり対応した。

表3-12 精神科診断区分状況（新規）

(2020年度、単位：人)

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	高校生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)				1							1
自閉症(精神遅滞)											0
A D H D											0
精 神 遅 滞											0
そ の 他					1						1
合 計	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2

注) 年齢は学年齢である。

表3-13 前年度からの継続児

(2020年度、単位：人)

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	高校生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)											0
自閉症(精神遅滞)							5			1	6
A D H D											0
精 神 遅 滞											0
そ の 他											0
合 計	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	6

注) 年齢は学年齢である。

表3-14 精神科診断区分状況

(2020年度、単位：人)

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	高校生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)				3							3
自閉症(精神遅滞)							61			3	64
A D H D											0
精 神 遅 滞											0
そ の 他					1						1
合 計	0	0	0	3	1	0	61	0	0	3	68

- 注) (1) 年齢は学年齢である。
 (2) 延べ受診人数である。

(5) 検査

表3-15 脳波、ABR、心電図

(2020年度、単位：件)

検査名	就学前児童						小学生		他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年		
A B R		2	6	2	2					12
脳波										0
心電図							4			4

注) 年齢は学年齢である。

表3-16 エックス線写真部位

(2020年度、単位：件)

部位	就学前児童							小学生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
足部			1		1							2
脊柱			1	1	4	2	2	2	6	2	3	23
股関節			6	6	8	5	3	6	5	3	2	44
下肢												0
膝						1						1
手根骨												0
肘												0
頸椎					1	2	1	1				5
アデノイド												0
その他					1	1					1	3
計	0	0	8	7	15	11	6	9	11	5	6	78

注) 年齢は満年齢である。

実人数	年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年	中学生	他	計
	人数		0	0	6	6	12	8	5	7	7	2	4

(6) 診断書等発行

表3-17 診断書等発行状況

(2020年度、単位：件)

診断書等	小児科	整形外科	耳鼻科	精神科
特別児童扶養手当診断書	50	3		
障害児福祉手当診断書	2	1		
身体障害者手帳診断書		4		
精神保健福祉手帳診断書	1			
補装具意見書		48		
補装具交付証明書		46		
障害証明書				
初診日に関する証明書	9			
私立幼稚園特別支援教育費も係わる診断書	35			
その他診断書	39	2		
紹介状・回答書	289	4	1	1
おむつ意見書				
児童発達支援等の利用に係わる意見書	115			
計	540	108	1	1

注) 1,2才児初診を受けた児のうち、保健センターから紹介された場合は、初回の発達相談の後、報告書を発行した。(141件)

2 訓 練

当センターでは、訓練部門として、個別訓練、生活支援事業（摂食・嚥下機能訓練、通園・療育グループでの摂食指導・療育参加、学校連携）、保護者向け学習会、巡回療育指導、訪問療育指導、関連診療科との協力等の業務を行った。

(1) 理学療法 (PT)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、理学療法士 2 名が、施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。非常勤職員 3 名は、合計で 2 日 / 週ほどの勤務であった。
- ・ 訓練内容は、児童の全身状態や障害状況、運動状況に合わせ、ボイタ法を含めた運動療法や呼吸理学療法を行っている。
- ・ 児童の家庭や保育園での生活を把握しながら、生活面における指導・援助を行い、訓練・治療内容が児童・家族の日常生活の改善や向上につながるよう努めている。
- ・ 訪問看護や訪問リハビリを受けている児童について、関連機関からの見学があり、当センターでのリハビリ状況や訪問看護・訪問リハの状況の情報共有を行った。
- ・ 座位が不安定な児童に対し、椅子・姿勢保持具等の作製を行った。
- ・ 2020 年度の新規児童は、28 名であった。診断名別に見ると運動発達遅滞が全体の 35.7% で最も多かった（表 3 - 18）。年間延べ人数は 1983 人、10 年の推移をみると大きく減少しているが、3 年間は横ばいである。
- ・ 2020 年度末の時点で医療ケアを必要とする児童は気管切開 4 名、酸素吸入 1 名、エアウェイ 2 名、胃ろう・腸ろう 10 名、経管栄養 3 名であった。
- ・ 訓練対象児 114 名のうち、通園児は 15 名であった（そよ風）。
- ・ 巡回療育指導を看護師とともに行った。
- ・ 他機関（病院・クリニック・訪問リハ）の併用について
 - － 他機関を併用する児童は、重心児を中心として増加傾向にある。
 - － 重心児を地域でバックアップする体制が拡充されてきていることが推測される。
 - － 他機関での理学療法は医学的・治療的な側面が強いため、当センターでは療育的な側面を補う必要がある。

表3-18 PT診断別状況(新規)

(2020年度、単位:人)

主診断名	就学前児童								小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 6ヶ月 未満	0歳 6ヶ月 以上	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学 年	高学 年				
脳性麻痺		2 (1)	1 (0)										3 (1)	10.7
その他の運動障害 (症候群含む)			1 (0)				1 (0)					1 (0)	3 (0)	10.7
後天性要因による 運動障害						1 (0)							1 (0)	3.6
ダウン症候群		2 (1)	2 (2)	1 (0)	2 (0)								7 (3)	25.0
その他の染色体異常		1 (0)											1 (0)	3.6
運動発達遅滞		2 (1)	8 (1)										10 (2)	35.7
知的障害に伴う 運動発達遅滞				1 (0)	1 (1)	1 (0)							3 (1)	10.7
神経・筋疾患													0 (0)	0.0
二分脊椎													0 (0)	0.0
発達障害													0 (0)	0.0
骨・関節疾患													0 (0)	0.0
その他													0 (0)	0.0
計	0 (0)	7 (3)	12 (3)	2 (0)	3 (1)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	28 (7)	
%	0.0	25.0	42.9	7.1	10.7	7.1	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6		100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) 診断名は2021年3月末時点での診断名である

(3) 再度、処遇を受けた児童も含む。

(4) ()内は、訓練開始時の移動能力が移動不可～寝返りの段階にある児童数をあげた。

表3-19 PT診断別状況(新規+継続)

(2020年度、単位:人)

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 2020年度 生まれ	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺	1 (0)	3 (1)		1 (0)	2 (2)	3 (0)	2 (0)	11 (5)	9 (5)	6 (3)	9 (4)	47 (20)	41.2
その他の運動障害 (症候群含む)		1 (0)	4 (1)	3 (0)		3 (0)	3 (1)	2 (0)			2 (0)	18 (2)	15.8
後天性要因による 運動障害					1 (0)	1 (0)				1 (0)		3 (0)	2.6
ダウン症候群		3 (0)	3 (0)	4 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)				16 (0)	14.0
その他の染色体異常		1 (1)	2 (1)			1 (0)		1 (1)	2 (2)		1 (0)	8 (5)	7.0
運動発達遅滞	1 (0)	5 (0)	7 (1)	1 (0)								14 (1)	12.3
知的障害に伴う 運動発達遅滞				3 (0)	2 (1)	1 (0)						6 (1)	5.3
神経・筋疾患												0 (0)	0.0
二分脊椎												0 (0)	0.0
発達障害			2 (0)									2 (0)	1.8
骨・関節疾患												0 (0)	0.0
その他												0 (0)	0.0
計	2 (0)	13 (2)	18 (3)	12 (0)	7 (3)	10 (0)	6 (1)	16 (6)	11 (7)	7 (3)	12 (4)	114 (29)	
%	1.8	11.4	15.8	10.5	6.1	8.8	5.3	14.0	9.6	6.1	10.5		100

注) (1) 2020年度内に管理をした全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。

(2) 年齢は、学年齢である。「0歳、2020年度生まれ」は、2020年4月2日以降生まれの児童である。

(3) 診断名は、2021年3月末時点(終了児はその時点)の診断名である。

(4) ()内は、2021年3月末(終了児はその時点)の状態で移動不可～寝返りの段階にある児童をあげた。

表3-20 PT終了等の状況

(2020年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	転居・転院	高校卒業	中断	就学	その他	計
人数	15	1	8	5	4	0	1	34

表3-21 PT月別状況

(2020年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	52	61	68	75	72	75	77	78	76	77	82	86		73.3
延人数	127	138	169	179	154	175	182	163	160	168	168	200	1,983	165.3
月管理数	88	89	91	93	93	94	94	97	95	89	92	94		

注) (1) 1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均2.3回であった。

(2) 担当児全員の頻度(延人数÷月管理数)は1.8回であった。

(2) 作業療法 (OT)

- ・個別訓練は医師の指導監督の下、作業療法士2名が施設基準の障害児(者)リハビリテーションに基づいて行った。非常勤職員1名は、3日/週、7月まで勤務した。
- ・治療内容は、脳性麻痺児やその他の疾患による肢体不自由児に対する機能訓練と、発達障害等の児に対する評価や治療・指導などである。
- ・発達障害等の児に対する治療や指導は主に感覚統合療法を用いて行った。
- ・観察評価に加え、目的に応じJMAP、臨床観察、JSI-R、視知覚発達検査を用いた。
- ・処方年間86名出され新規児童は88名であった。待機期間を長くしないため、訓練期間の区切り(10回クール制)を継続し受け入れ枠も増やし対応した。職員の入れ替わりの関係で、4,5月は7か月待ちの状態があった。3月末時点で未開始の児童は27名であった。
- ・新規児童は、ASD(自閉スペクトラム症)の児童が全体の69.3%を占めた。年齢は、年長児28名31.8%、年中児48名54.5%、年少児9名10.2%であった。
- ・7月以降に処方が出た年長児童が7名いた。早めに訓練を開始し必要な訓練回数を確保できるように、新たに枠を設け優先的に予約を入れるなど行った。
- ・初診時に処方が出た年長児童4名は、保護者との子どもの捉えの一致の難しさ、開始時期が遅いことによる効果の出にくさがあった。
- ・10回クール制で要点を絞った目標設定で目標を達成し終了出来た児もいたが、状況に合わせて治療内容、訓練回数を変更し対応する事が必要な児もいた。
- ・整形外科からの新規、再処方は無かった。
- ・コロナウイルスの感染拡大の状況下にあったため、訓練開始が延期になった、訓練に来なくなった、別の所で訓練を開始したなどの児童が数人いた。
- ・訓練対象児164名のうち、通園児は10名であった(そよ風9名、あつた1名)。
- ・巡回療育指導を発達相談員とともに行った。

表3-22 OT診断別状況(新規)

(2020年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年					高学年
脳性麻痺					1	1	1					3	3.4
後天性要因による運動障害												0	0.0
二分脊椎												0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺												0	0.0
ダウン症候群												0	0.0
その他の運動障害(症候群を含む)												0	0.0
知的障害	不器用を伴う				1	2						3	3.4
	多動を伴う											0	0.0
境界域						2						2	2.3
A D H D					2	3	1					6	6.8
L D						1						1	1.1
A S D	知的障害を伴う			2	9	3	1					15	17.0
	知的障害を伴わない			2	16	26	2					46	52.3
協調運動障害				1	4	3						8	9.1
その他					1	2	1					4	4.5
計	0	0	0	5	34	43	6	0	0	0	0	88	100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)に含まれている。

表3-23 OT診断別状況(新規+継続)

(2020年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺					6	2	3	3		2	16	9.8
後天性要因による運動障害			1	1			1		1		4	2.4
二分脊椎											0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺											0	0.0
ダウン症候群											0	0.0
その他の運動障害(症候群を含む)						1	1				2	1.2
知的障害	不器用を伴う				3	2					5	3.0
	多動を伴う										0	0.0
境界域					3						3	1.8
A D H D				1	2	8					11	6.7
L D						1					1	0.6
A S D	知的障害を伴う		1	3	15	11					30	18.3
	知的障害を伴わない			4	31	41					76	46.3
協調運動障害				3	5	3					11	6.7
その他					1	4					5	3.0
計	0	0	2	12	66	73	5	3	1	2	164	100

注) (1) 2020年度内に管理した全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)に含まれている。

表3-24 OT終了等の状況

(2020年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	就学	高校卒業	中絶	その他	計
人数	45	7	6	4	18	1	7	0	88

表3-25 OT月別状況

(2020年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	62	62	81	76	75	82	90	80	94	95	92	96		82.1
延人数	84	92	121	123	109	120	127	103	130	135	116	140	1,400	116.7
月管理数	87	95	96	99	102	108	115	119	125	128	130	120		

注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.4回であった。

(2) 担当児全員の頻度(延人数÷月管理数)は月平均1.1回であった。

(3) 言語聴覚療法 (ST)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、言語聴覚士 2 名（常勤 1 名、非常勤 1 名）が施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。
- ・ 対象は、主に言語・コミュニケーションに何らかの困難をもつ児童である。
- ・ 評価には、国リハ式 <S-S 法> 言語発達遅滞検査、質問 - 応答関係検査、新版構音検査、ITPA（イリノイ式言語学習能力診断検査）、PVT-R（絵画語い発達検査）、LC スケール、随意運動検査等を用いた。
- ・ 処方は年間 125 名（昨年度 107 名）出され、新規児童は 112 名（昨年度 108 名）であった。児童総数は 168 名（昨年度 167 名）であった。
- ・ 新規児童は年長児の割合が高く、全体の 47.3% であった。年中児は 39.3% であった。
- ・ 新規診断別状況では ASD（自閉スペクトラム症）の児童が 64.3% であった。
- ・ 訓練開始の待機状況は、年度開始時点で前年度からの待機が 34 名、3 月末時点で未開始の児童は 49 名であった。4,5 月に新患枠を増やして対応したが、常時 2.5~4 ヶ月待ちであった。
- ・ 2018 年度と 2019 年度は訓練開始まで半年待ちとなり、訓練頻度の調整や新患枠を増やして対応してきたが待ち期間の緩和には至らなかったため、今年度は 10 回クール制をとった。今年度の待ち期間は最大 4 ヶ月であった。
- ・ 10 回クール制では、児の状況に応じて訓練頻度や回数を調整した。
- ・ 今年度は目標達成で終了となるケースが増加した。これは、回数を区切ることで目標やその到達について保護者と確認しやすくなったことによる。
- ・ 外国籍のケースや、他施設との連携を必要とする家庭フォローを目的に含むケースが数件あった。
- ・ 訓練対象児 168 名のうち、通園児は 20 名だった（そよ風 16 名、あつた 4 名）。
- ・ 児童の状況に合わせて言語・コミュニケーション指導を個別に行った他、7~12 月に年長児 4 名（9 月から 3 名）を対象に月 1 回のグループ訓練を行い、コミュニケーションの相互性やルールに則した言動の獲得を目指した。
- ・ 言語聴覚士 2 名は、週 1 回耳鼻咽喉科の各種聴力検査（BOA・COR・peep-show・プレイオーディオ・純音聴力検査・ティンパノメトリ・DPOAE）を担当した。
- ・ 巡回療育指導を発達相談員とともに行った。

表3-26 ST診断別状況(新規)

(2020年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%		
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年					高学年	
脳性麻痺						2	1					3	2.7	
知的障害					1	1						2	1.8	
境界域						4						4	3.6	
ASD	知的な遅れを伴う				2	14	15	1					32	28.6
	知的な遅れを伴わない				2	4	29	5					40	35.7
L D						2						2	1.8	
A D H D						1						1	0.9	
言語発達遅滞			1		2	2	1					6	5.4	
ダウン症候群				1	3	2						6	5.4	
構音障害					5	6	2					13	11.6	
吃音						2						2	1.8	
難聴												0	0.0	
場面緘黙												0	0.0	
その他					1							1	0.9	
計	0	0	1	5	30	66	10	0	0	0	0	112	100	

注) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表3-27 ST診断別状況(新規+継続)

(2020年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺					2	2	1	1			6	3.6
知的障害					2	3					5	3.0
境界域					3	1					4	2.4
ASD	知的な遅れを伴う			7	16	25	1				49	29.2
	知的な遅れを伴わない		1	1	16	41	1				60	35.7
L D						2					2	1.2
A D H D						3					3	1.8
言語発達遅滞		1			5	1					7	4.2
ダウン症候群				2	2	5					9	5.4
構音障害				2	6	10					18	10.7
吃音					2	1					3	1.8
難聴											0	0.0
場面緘黙											0	0.0
その他				1			1				2	1.2
計	0	1	1	13	54	94	4	1	0	0	168	100

注) (1) 2020年度内に管理した全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) 構音障害・吃音に分類した児童の内、23.8%はASDまたはADHDの診断を受けた児童である。

表3-28 ST終了等の状況

(2020年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	高校卒業	中断	就学	その他	計
人数	44	3	2	1	0	9	43	1	103

表3-29 ST月別状況

(2020年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	56	57	86	92	85	105	112	96	102	95	99	102		90.6
延人数	79	78	138	136	123	149	154	130	136	134	138	143	1,538	128.2
月管理数	73	83	94	101	107	117	125	127	129	124	129	123		

注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.4回であった。

(2) 担当児全員の訓練頻度(延人数÷月管理数)は月平均1.2回であった。

(4) 生活支援

① 摂食・嚥下機能訓練

- ・麻痺等の運動障害に起因する摂食・嚥下障害のある子どもや、運動発達の遅れ等に伴う食事機能の未熟さをもつ子ども（およびその保護者）を対象に、リハビリスタッフ（PT・OT・ST）と栄養士の計4名で評価・指導を行った。
- ・評価・指導は、③通園・療育グループでの給食、⑥摂食訓練会・個別訓練の場において行った。

③通園・療育グループでの給食

- ・通園においては、リハビリスタッフ3名が各クラスの給食に入り、評価・指導を行った。今年度は通園児55名中10名が摂食・嚥下機能訓練の対象であった。
- ・療育グループにおいては、ひよこグループにリハビリスタッフが入り、全体の様子をみながら必要児にはポイント指導・助言を行った。さらに細かな評価・指導が必要な児童に対しては、摂食訓練会につないだ。

表3-30 給食指導対象児の年齢別状況

(2020年度、単位：人)

区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
通園			1	5	2	2	10
あいあい組							0
計	0	0	1	5	2	2	10

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) スクリーニング的な評価を行った児童は含まない。

表3-31 給食指導の月別状況

(2020年度、単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通園	2		1	12		2	6	10	6	1		4	44
あいあい組													0

注) (1) 個人への給食指導を基本とし、クラス全体への指導も1件としてカウントした。

(2) 4・5月は、通園及びあいあい組の全体的評価を中心に実施した。

(3) 緊急事態宣言中を含め、コロナ対策として給食指導を制限または中止した月があった。

⑥摂食訓練会

- ・月2回年間24回の摂食訓練会を設定したが、コロナ対策のため実施できたのは13回であった。0~4歳の児童10名に対し、個別指導を中心とした内容で評価・指導を行った。新患は5名であった。指導回数は各々1~3回/年であった。
- ・摂食訓練会に通うことが難しい3名に対しては個別訓練の枠の中で、評価・指導を実施した。

表3-32 摂食訓練会実施児の診断別状況

(2020年度、単位：人)

区 分	就 学 前 児 童						学 齢	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
脳 性 麻 痺		1						1	10.0
後天性要因による運動障害								0	0
ダ ウ ン 症 候 群	1 (1)	3	1	1				6 (1)	60.0
その他の染色体異常		1						1	10.0
その他の運動障害								0	0
知的障害に伴う運動発達遅滞								0	0
発 達 障 害								0	0
運 動 発 達 遅 滞	1	1						2	20.0
計	2 (1)	6	1	1	0	0	0	10 (1)	100

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) () 内はその児童のうち、DQ20以下で未定額の児童数をあげた。

表3-33 摂食訓練会月別実施状況

(2020年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数			2		1	1		1	2	4	2	3	16
延人数			2		1	1		1	2	4	2	3	16

表3-34 個別枠における摂食訓練月別実施状況

(2020年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数			1							1			2
延人数			1							1			2

② 学校連携

- ・ 学校生活を支援する目的で港特別支援学校と連携をとった。
- ・ 学校との連携で得た情報は、個別訓練を実施する上でも貴重であった。
- ・ 学校側からのニーズは高かったため、コロナ対策をしながら可能な限り対応した。
- ・ 連携は、④ケース会、⑥個別訓練見学において行った。

①ケース会

- ・6月と11月の2回を予定していたが、感染防止の観点から11月のみ開催となった。
- ・対象は、小学部1年生（4名）であった。
- ・PT・OT・STが学校へ訪問した。
- ・動画を用いて、担当教員と授業の中で可能な取り組みの検討を行った。

②個別訓練見学

- ・例年実施する夏休みの個別訓練見学は、コロナ感染予防のため中止とした。
- ・必要性が高いケースのみ、時期の検討とコロナ対策を行ったうえ実施した（1名）。
- ・個別訓練見学の代替策として、動画や写真を用いて保護者を介した情報交換や、電話での相談を行った。

(5) 保護者向け学習会

表3-35 保護者向け学習会実施状況

実施日	内 容	対 象	参加人数	担 当
7月21日	子どもの表現を見つけよう！子どもの表現を広げよう！～非言語コミュニケーションについて学ぼう～	通園 肢体不自由児クラス	5名	ST
10月13日	運動や手先の活動について	並行グループ (しんかんせん)	5名	OT

(6) 音楽療法 (MT)

- ・個別音楽療法を、音楽療法士1名が週1回（木曜日）実施した。
- ・対象は、ASD（自閉スペクトラム症）の児童が72.2%と最も多かった。
- ・新規児童は4名であった。
- ・興味を広げることや他者を意識し、三項関係を築くことを目的に実施した。
- ・対象と目的により、母親も一緒に参加するプログラムを行った。
- ・10月より通園児を対象に集団音楽療法を実施した。

表3-36 MT診断別状況

(2020年度、単位：人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
ASD	知的障害を伴う				3	3	4	2			12	66.7
	知的障害を伴わない					1					1	5.6
脳性麻痺						1					1	5.6
知的障害				1							1	5.6
その他					3						3	16.7
計	0	0	0	4	7	5	2				18	100

注) 年齢は、学年齢である。

表3-37 MT月別状況

(2020年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	6	8	10	10	9	7	7	10	9	9	9	11		8.8
延人数	12	11	16	12	12	10	10	12	12	13	10	14	144	12

注) 1人あたりの訓練は、月平均1.4回であった。

第4 通園事業

1 施設概要

(1) 定 員 50名

(2) 対 象 児 童

0歳から就学前の、障害・発達のおくれを発見された子ども、又はその疑いのある子どもを対象にする。

(3) クラス編成 生活年齢を基準に編成する。

(4) 通園形態 親子通園及び単独通園の2形態とする。

(5) 親子通園の種類

① 新規親子通園

新入園児を対象として、4月は週3登園、5月は週4登園を行う。

② 定例親子通園

全園児を対象として、毎週水曜日に行う。

(6) 通園バス

- ・通園のための送迎を車をワゴン車2台とマイクロバス1台運行する。
- ・自家用車がない等により登園が困難な親子に、親子登園期間中、及び水曜親子登園日に通園バスでの送迎を行う。(親子バス)

2 療育内容

(1) 子ども像

子ども像とは「こんな子どもに育ててほしい」という私たち保育者のねがいである。

障害をもっていても、ひとりの人間として、障害をのりこえ、たくましく、ゆたかに成長発達してほしい。「かわいがられる障害者」ではなく「自立(律)した障害者」になってほしいというねがいをもち、以下の子ども像をたてた。

- ・いのちを守り、いのちをつよくする子ども
- ・ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
- ・どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
- ・人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
- ・人とともに育ちあえる子ども

(2) 療育の視点

社会情勢を見つめて

- ・現代の子育ての状況や社会福祉の動向などから地域の社会の実態をとらえ、子どもの発達を保障できる療育づくりをすすめる。
- ・日本国憲法や子どもの権利条約に学び、子ども一人ひとりの人権を守り、平和の大切さを伝える療育実践をすすめる。

一人ひとりの発達を支援する

- ・一人ひとりの子どもの発達や障害、これまでの育ちをまるごととらえ、発達課題を明らかにしながら、どの子も集団の中でいきいきとあそぶことができる療育づくりをすすめる。
- ・一人ひとりが自分を大切にされる経験を通して、どんな命も尊く、かけがえのないものであることを療育を通して伝える。
- ・食を通じて(さまざまな形態を意味する)、健康な身体をつくる。また、食育の視点を大切に、日々の食事を家族と共に豊かにする。
- ・子どもたちが、身近な自然や文化に触れながら生活経験を広げることを大切にする。また保育者がさまざまなあそびの文化を学び、子どもがドキドキワクワクと心動かすあそびづくりを追求する。
- ・大人との安心できる関係のもと、もっとあそびたい、できてうれしいなど、子どもの要求を広げ、人と共感しあえる関係づくりをしていく。
- ・一人ひとりのよさや、いろんなことに挑戦する中で達成感を積み上げ、集団の中で認められ、自己肯定感が育てられる集団づくりをすすめる。

家族とともに

- ・子どもを真ん中にして、家族の思いや願いを共有しながら、家族が元気に子育てに向かえる支援をすすめる。
- ・日々の子育てを担う母親が、子どもの理解を深めながら基本的な子育てを学び、楽しく子育てできるように支援する。
- ・母親同士が思いを出し合い、子育てへの思いや悩みに共感し、互いに育ちあえる母親集団づくりをする。
- ・父親、兄弟の交流を通して、仲間づくりをすすめる。

(3) 療育計画

① クラス編成・登園日

(2020年度)

クラス名	人数	年 齢	担任	登園日・登園時間
つばめ組 (進級児クラス)	8	5歳児 5 4歳児 3	3	・進級児 月・火・木・金(単独通園) 10:00~15:00 水(親子通園) 10:00~13:00 ・新入児 4月…週2日親子通園 10:00~13:00 5月…週3日親子通園 10:00~13:00 6月…単独・週3~4日通園へ移行 (進級児と同様) ※新型コロナ感染予防のため、新入児親子登 日は少人数で日数を減らして行った。
そら組 (進級児クラス)	7	5歳児 7	3	
にじ組 (進級児)	9	4歳児 8 3歳児 1	3	
ちょうちょ組 (進級児・新入児クラス)	9	4歳児 5 3歳児 4	4	
めだか組 (新入児クラス)	6	3歳児 3 2歳児 3	2	
たんぽぽ組 (新入児クラス)	7	4歳児 2 3歳児 5	3	
つくしんぼ組 (新入児クラス)	9	3歳児 8 2歳児 1	3	

② 日 課

時間	単 独 通 園 日	親 子 通 園 日
9 —	通園バス	
9:45 —	直接登園の子 登園	
10 —	通園バス到着 健康チェック、着替え 水分補給 おはようのつどい あそび・とりくみ	登園 健康チェック、着替え 水分補給 おはようのつどい あそび・とりくみ
11 —	給食準備 給食	給食準備 給食
12 —	歯みがき・たんれん・着替え 絵本の読み聞かせ	歯みがき・たんれん
13 —	午睡	さよならのつどい 降園
14 —		
15 —	着替え、水分補給 さよならのつどい 降園 通園バス、見守り一時支援(～17:30)	※生活づくり習間 7/6~8/28 登園時間を30分繰り上げ9:30登園、 15:00降園にした。
16 —		

③ 親子登園日（水曜日）の内容

親子あそび クラス毎に、親子で楽しくあそんだり、親子での経験を広げる（1～2回/月）

親子プール クラス毎に園内の温水プールに入る（1回/3ヶ月）

母親研修 STより「コミュニケーションとことばの発達」を対象クラスに行う。OT、PTは新型コロナ感染予防のため、中止する。希望者に就園懇談を行う。

親の会 年間3回の役員会、5回の親の会（オンライン2回、文書提案1回、集合2回）を実施する。

今年度より火曜日の親子療育日を、月に1日15時までの単独療育日にした。

④ クラスを越えた保育

年長保育…12名の年長児に、4月から1年間通して年長保育を行った。野菜の栽培や単独宿泊をとりくんだ。保護者は親子宿泊、サポートブック作成のとりくみを行った。

⑤ 給食の状況

形 態	人 員
普通食	30
完了～移行食	9
側方への咀嚼～歯茎たべ	6
舌つぶし～側方への保持	6
ペースト～マッシュ	4
経管栄養（鼻注・胃ろう・他）	2
アレルギー	6
禁忌食材への対応	0

・調理の工夫

手づかみをする/すくう/さす/しっかり噛む…をするために

- ・一つ一つの食材の目標をはっきりさせることにより、手づかみ、すくう、さすをしやすくする。
- ・食材を大きめに切り、噛み切る、噛みちぎる、噛むなどをし、一口量のコントロールをしやすくする。
- ・移行食という考え方ではなく、乳児食として普通食との間を埋める調理法を取り入れる。

食べやすくするために

- ・ゼリー食（ソフト食）にする。
- ・トロミを使い飲み込みやすくする。（水分補給・餡の利用）
- ・子どもの状況に合わせ、固さや調理法、食材を変える。
- ・手づかみしやすい大きさや固さにする。
- ・刺しやすい固さ、すくいやすい大きさにする。

- ・水分、栄養を摂るために、体調に合わせ調理形態の変更及び、高栄養剤の注入等、臨機応変な対応をし、一定量の確保をする。

・食器の工夫

ノンスリップマット、吸盤、食器の重さ、深さなど子どもが使いやすいものに変える。
スプーン、フォークのグリップや柄、角度を子どもが使いやすいものに変える。
コップの高さ、持ち手、ボトル、チューブ、ストローなど子どもに応じて水分補給のしやすいものに変える。
『自分で』『目的をはっきりさせる』など、子どもが意欲的に向かいやすいように（取り皿 / 深さ / 重さ / 形など）工夫する。

・給食指導の状況

子ども一通園の給食に栄養士・訓練士（PT2名、OT2名、ST1名）が入り、保育者と共に給食指導をし、それぞれの子どもの摂食嚥下、道具操作、姿勢（机・椅子）など状況を捉え合い、必要な関わりや方向性の検討を行った。

食に偏りのある子の捉え、日課、カリキュラムの検討を行い、給食の内容や関わり方、クッキングの中味を具体的に考え、実施した。季節や日々の生活の中で食材を見る、触れる・味わうなど『五感』に働きかけることを意識し、子どもたちにとっての経験、食への興味を広げる取り組みを考えてきた。何気ない日々の生活の大切さを実感した今年度は改めて食卓を囲む等、楽しく食べることを考えてみた。

親一おたより（月1回）、クラス研修、個別懇談、食事調査を必要に応じて行い、水分のとり方、簡単朝食アレンジ、食品ストック法、等ニーズに対して啓蒙した。研修や長時間保育を通し、水分、食事を考えるきっかけにした。日々の生活を通し、「共食」の大切さや、「食文化」を意識し、経験を積み重ねてきた。子どもの気持ちがみえるようなエピソードや写真を添えたおたよりづくりを通して、子どもたちの園での様子を伝えるものとしてきた。クラスの状況に応じ、クッキングを計画的及び衛生管理を徹底して取り組み、そのことを通して、家庭での生活作りや子どもとの関わりにつなげ、食べることへの興味関心が広がってきた姿を伝えてきた。食事調査を行い、家庭での悩み（食事づくりや買い物など）から、簡単にできる調理の工夫について啓蒙した。親子で登園可能な時に試食を位置づけたことで、各クラスより作り方が知りたい、気になるメニューなどがあがった時に、ひとつのメニューからいろいろアレンジできるような工夫やポイントを添えたレシピ集を発行した。

・給食委員会

月1回、各クラスの給食委員と栄養士、調理師で行い、各クラスの子どもの状況をとらえあい日々の療育につなげてきた。学習を毎月位置づけ、興味のあること、考えあいたいこと等、担当になった職員がテーマごとに伝える、学びあうことを意識してきた。

各クラスの子どもたちの状況により、水分補給の内容、食事形態など、園生活の日課の整理を含め子どもたちにとってよりよい生活を考えるクラスケースを年に2回取り組んだ。療育として食べることをどう考え、実践していくか積を職員集団で積み上げてきた。

年度末にクラスごとの人気メニューを壁新聞にし、親向けのレシピ集の編集を行ってきた。

⑥ 年間行事

月	日	内 容	内 容
4	4 (土)	入 園 式	そよ風入園のつどい。新入児を2回にわけてつどう。
	6 (月)	進 級 式 (はじまりのつどい)	そよ風進級のつどいを親子で各クラスでつどう。
5	15 (金)	親 子 遠 足	東山動物園(名養連・名障連招待行事)は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
6	20 (土)	潮 干 狩 り	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
	28 (日)	お父さんとあそぼう会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
7	6 (月) ~ 8/28 (金)	生 活 づ くり 週 間	登園時間を9時30分にし、園でのあそびの充実や、家庭での過ごし方の検討をとりくむ。
	17 (金) 18 (土)	年 長 親 子 宿 泊	新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期。
8	6 (木)	海 水 浴	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年長クラス(つばめ・そら)のみを対象にし、親子で野間海水浴場にて行った。
	29 (土)	そよ風夕涼み会 社会館夏まつり	新型コロナウイルス感染拡大防止のため社会館夏まつりは中止。そよ風夏まつりをクラスごとに時間をずらし、親子登園にして行う。
10	7 (水)	みんなのあそぼう会 (にじ組、ちょうちょ組)	前半期療育まとめの行事。 感染症対策として、日程を変更し、クラスごとに分散して行う。子どもたちのとりくみを家族の方が参観した。
	8 (木)	みんなのあそぼう会 (めだか組、たんぼ組、つくしんぼ組)	
	17 (土)	みんなのあそぼう会 (つばめ組、そら組)	
	18 (日)	家族うどん会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
	3 (祝)	社会館60周年記念事業	いちご動物園とOKUDA弁慶号を招き、他部署の利用者の方と調節して時差登園をし、家族で楽しんだ。
	23 (土・祝)	社会館バザー	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
12	4 (金) 5 (土)	年 長 親 子 宿 泊	親子でそよ風に宿泊し、24時間の生活を家族とともに捉えた。クリスマスツリーの飾りつけを親子でとりくんだ。
	23 (水) 24 (木)	ク リ ス マ ス 会	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、2日間に分けて取り組む。年長児は職員によるハンドベル演奏を親子で楽しんだ。クラスごとのあそびと、サンタクロースからプレゼントを受け取った。
2	6 (土) 7 (日)	がんばったお祝い会	1年間の療育のまとめの行事。6日に3クラス、7日に4クラスとりくんだ。
3	19 (金)	おわかれのつどい	園児のみで行う送り出しのつどい。園庭で全クラス集まり、パラバルーンをとりくんだ。
	20 (土・祝)	卒 園 式 (親の会お別れ会)	就学児12名の卒園を祝う。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年長児親子と通園部職員のみでの参加とし、規模を縮小して行った。親の会お別れ会は中止したが、4才児親子とともに園庭で風船飛ばしで送り出しを行った。
	24 (水)	そよ風のつどい	2020年度療育終わりのつどい。感染拡大防止のため、全体でのとりくみはせず、クラスごとで保育証書授与式と親子あそびを行った。

⑦ 相談・診療との関わり

- ・入園前健診（3月）、在園児健診（4～5月、12月）を実施した。また、例年実施している、歯科検診（6月）は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止とした。
- ・重心児や新入児をはじめとした丁寧な健康管理が必要な児を対象に、週1回～2ヶ月に1回の頻度で、登園前の定期診察を実施した。
- ・医療的ケアが常時必要な児の単独での療育を保障するために、クラス担任で健康状況を丁寧に捉え、看護師と情報を共有して単独移行をすすめた。
- ・年1回、通園の子どもたちの発達相談を実施し、その後心理士と情報交換、検討を行った。
- ・給食指導に週3～4回訓練士が入り、道具操作や摂食指導を行った。（新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言中は中止）
- ・月1～2回、クラスからの希望により訓練士（PT、OT、ST）が通園療育に参加し、子どもの状況を捉え合うとともに、療育検討を行った。（新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言中は中止）
- ・医師・保健師・看護師・通園職員で月1回健康会議を実施した。

3 家族援助

親子療育	<p>毎週水曜日（親子あそび、親子プール、園外保育、親の会、研修会） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、緊急事態宣言中は水曜親子登園を中止した。</p> <p>新入児親子療育（4～5月 2・3・4歳児） ※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、クラスを2つに分けて少人数での親子親子療育を行う。そのため、登園日数は4,5月は週2日程度になった。</p> <p>親子行事（2020年度実施行事は前述） 誕生会（月1回：1年を通じてクラスごとに行った。） 個別療育 新入児（4月）</p>
クラス懇談会	<p>前半期クラス懇談会（5月） ※新入児クラスは、保育説明会（5月） 後半期クラス懇談会（10月・11月）</p>
懇談等	<p>個人懇談（各家庭年2回 5～6月、11月に実施） 家庭訪問 ※新型コロナウイルス感染症にも伴い、年度初めの家庭訪問は全クラス中止した。新入児のみ11月に行う。</p>
全体	<p>・コミュニケーションとことばの発達（言語聴覚士）</p>
クラス研修	<p>・就園懇談会（公立保育園園長、就園児親） ・就学懇談会（担任、就学児親） ・サポートブック作成会（担任） ・たんれんについて（担任） ・排泄について（担任） ・生活リズムについて（担任） ・食べることと感覚について（栄養士） ・感覚について（担任）</p>

4 見守り一時支援

市内の各児童発達支援センターにて3時以降の療育を、希望者に対して実施している。そよ風通園部では、定員最大10名、最長17時30分まで受け入れを実施した。

月別利用実績（登録者数30名 利用申込22名）

（2020年度）

月	開所日	利用者人数	延べ利用者数	日平均
4月	15	5	58	3.9
5月	17	13	74	4.4
6月	19	13	99	5.2
7月	16	17	106	6.6
8月	15	14	91	6.1
9月	16	15	103	6.4
10月	15	16	87	5.8
11月	15	14	89	5.9
12月	14	12	94	6.7
1月	14	13	108	7.7
2月	14	16	103	7.4
3月	14	17	105	7.5
合計	184	165	1117	6.1

注) 4~5月は進級児のみ対象、新入児は6月より対象とした。

5 2020年度まとめ

(1) 療育づくり

2020年度は、定員より1割多く受け入れをし、新入児24名、進級児31名の55名でスタートした。2019年度末からの新型コロナウイルス感染症の状況を受けて、子どもたちの日々の登園保障を大切にし、必要な対策を行った。

あそびづくりでは、堀江名誉所長からの提起で、「内容論と関係論」に視点をあて、保育づくりをした。まとめの行事を通して、障害の重い子どもたちの力を引き出す、光らせるあそびづくりの課題が明らかになった。また、保育者の願いや思いと、子ども自身の願いや意欲のズレがないだろうか、子どもたちの姿からその時々のお気持ちや発達を理解し、「ドキドキワクワク」するあそびを子どもと保育者が一緒にあそびながら展開する実践の積み重ねも今後の課題である。

(2) 家族支援

コロナ対応として、保護者の方にその都度文書を出して、送迎や登園調節などの協力をお願いした。親子登園はクラスごとの分散にしたため半分以下の実施回数だったが保護者の積極的な参加から、親子療育への期待を感じられた。家族と会う機会が減ったことで、家庭生活の捉えにくさや、父親の子どもへの関わりを知る機会がなく、父親を巻き込んだ子育て支援の課題が残った。

通園バスは55名中50名が利用する。バス利用することで、登園保障につながっている。

研修は子どもの理解を深めるための研修（発達・障害）を実施することができなかった。保護者の子ども理解を見ると、必要な研修であると感じる。

親の会は会長さんが中心となり、少人数での総会の開催、オンラインでの定例会などを取り組む。

(3) 保育者集団づくり

中堅職員はそよ風の療育で大切にしたい視点が引き継がれ、何を大切に考えるか話すことができる力をつけてきている。主任が先頭に立ちながらも、リーダー会メンバーが共に動く位置で学びながら、リーダー会が力をつけることが課題になる。会議運営は短時間、規模縮小など工夫して行ってきたが、なかなか議論が深まらなかった。会議の効率化と中身を絞った議論の場となる運営、一人ひとりの職員が主体的に参加する意識を高めることが必要になる。

今年は、事故や職員によるミスが多くあった。繰り返さないための意識化や具体的な改善策を実行していくこと、職員集団が大きくなり、日々の働きが煩雑になっているので、運営的な見直しも課題である。

6 児童の状況

表4-1 障害種別状況

2020年度3月末現在

障害種別	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
知的障害		2	6	6	2	16
自閉症		1		2		3
自閉症+知的障害		1	11	9	5	26
知的障害+肢体不自由			1		1	2
肢体不自由						0
重症心身障害			2	2	4	8
その他保健						0
計	0	4	20	19	12	55

表4-2 障害程度別状況

障害程度	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
最重度			1	3	5	9
重度			4	8	3	15
中度		3	5	5	4	17
軽度		1	11	2		14
非該当						0
計	0	4	21	18	12	55

注) (1) 身障、愛護両方所持の場合、程度区分は重いほうを基準として分離した。
 (2) 未所持の児童に対しては発達指数により障害区分を分類した。

表4-3 手帳所持状況 愛護手帳

愛護手帳	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
1度			1	3	5	9
2度			4	8	3	15
3度		2	5	4	4	15
4度			9	1		10
未所持		2	2	2		6
非該当						
計	0	4	21	18	12	55

表4-4 身体障害者手帳

身体障害者手帳		1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
I種	1級			2		3	5
	2級				4	1	5
	3級		1		2	1	4
	4級						
	5級						
II種	6級						
	1級			1			1
	2級						
	3級			1		1	2
4級							
計		0	1	4	6	6	17

表4-5 区別状況

2020年3月現在

区	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
南区		2	3	4	2	11
緑区		2	18	14	10	44
港区		0	0	0	0	0
計	0	4	21	18	12	55

表4-6 通園日数

通園日数	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
1日				
2日				
3日				
4日				
5日	4	21	18	12

表4-7 月別児童数

入退園	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在園	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
月末在園	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55

表4-8 在園期間

在園期間	児童数	平均在園期間
1年未満		1年10ヵ月
1年以上2年未満	25	
2年以上3年未満	18	
3年以上4年未満	9	
4年以上5年未満	1	
5年以上6年未満	2	
計	55	

表4-9 卒退園児の進路先と平均在園期間

卒園	特別支援学校	肢体的	5	9	在園期間		卒園	退園	
		知的	4			1年未満			
	支援級		3	3	1年以上2年未満			10	
退園	保育園(公)		5	9	2年以上3年未満	3		1	
	保育園(民)		4		3年以上4年未満	6			
	幼稚園(公)			1	4年以上5年未満	1			
	幼稚園(民)		1		5年以上6年未満	2			
		転居		1	1	計			
						平均在園期間	2年11ヶ月	1年1ヶ月	

第5 地域ケア事業

1 地域連絡調整

表5-1 地域連絡調整

派遣先	内容	派遣職員	派遣頻度
南保健センター	のびのび教室	保育士・ケースワーカー	中止
緑保健センター	みどりっこ教室	保育士・ケースワーカー	4月7月のみ
緑保健センター徳重支所	ちゅーりっぷ教室	ケースワーカー	4月7月のみ

表5-2 連絡調整会議

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
南区 障害児療育連絡会 ブロック会議	2020.12.4 ・2020年度の療育連絡会 本会議の開催について ・各機関の事業の実施状況 ・2021年度の方向	南保健センター 公立保育園 民間保育園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長 通園部副園長
緑区 障害児療育連絡会 ブロック会議	2020.12.7 ・2020年度の療育連絡会 本会議の開催について ・各機関の事業の実施状況 ・2021年度の方向	緑保健センター 公立保育園 民間保育園 公立幼稚園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長 相談診療副部長
緑区子育てネット	1～2か月に1回幹事会 年1回赤ちゃんまつりの 開催 ※書面開催	民生子ども課 子育て支援センター 図書館・児童館・幼稚園 南部地域療育センターそよ風	相談診療部長

注) ブロック会議は、障害児療育連絡会の実施機関である。本会議は感染予防のため、開催しなかった。

表5-3 保健センター連絡会

実施なし

表5-4 事業所説明会

実施なし

表5-5 親の集い

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
南保健センター 発達に支援が必要なお子さんを持つ親の集い	中止		
緑区 子どもの発達が 気になる親の集い	2020.12.4 (1回のみ) 講話・座談会	緑区障害者基幹支援センター 南部地域療育センターそよ風 緑保健センター・講師	部長 ケースワーカー

表5-6 いこいの家事業

会議等	開催日・内容	構成メンバー	出席職員
緑区 いこいの家事業	2020.11.2 いこいの家職員との懇談	緑区いこいの家(葡萄の木) 南部地域療育センターそよ風	ケースワーカー
	2021.3.29 集団療育 体験会		グループ担当
南区 いこいの家事業	2020.6.22 親子遊びと個別相談	南区いこいの家(mimi) 南部地域療育センターそよ風	ケースワーカー
	2020.10.19 集団遊びと座談会		グループ担当

ケース会議

病院・相談支援事業所が主催するケース会議に出席した。(3件)

児童相談所とのケース連絡会は2件。訪問看護ステーションとのケース連絡会は1件。

出席者はケースワーカー・相談支援専門員・発達相談員・看護師・理学療法士。

2 巡回療育指導

保育園又は幼稚園、学校、地域の関係機関に通っている児童について各種の相談に応ずるとともに、保育・教育あるいは家庭療育に関する必要な助言及び指導を行った。なお、園からの申し込みにより当センターに受診歴の無い児童についても、助言及び指導を行った。

〈対象児〉

- ・保育園・幼稚園又は学校から相談を受けた児童（未受診児を含む）
- ・通園施設から保育園・幼稚園へ就園した児童及び小学校に就学した児童への通園職員による巡回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

表5-7 月別巡回療育指導状況 (2020年度、単位：件、人)

区分	10月	11月	12月	1月	2月	計
件数	8	9	7			24
人数(受診児)	1	8	10			19
人数(未受診児)	21	14	8			43

注) (1) 1月・2月は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中により実施中止とした。

中止となった件数は、7件(保育園6ヶ園、子ども園1ヶ園)。

(2) 受診児のうち4名は、通園施設卒園児へのリハビリ職員によるアフターフォローとして実施した。

表5-8 巡回療育指導施設数

(2020年度、単位：カ所)

区分	南区	緑区	港区	計
保育園	2	19		21
幼稚園		1		1
こども園		1		1
学校			1	1
計	2	21	1	24

表5-9 巡回療育担当スタッフ

(2020年度、単位：件)

ケア-カ-保衛	発達相談員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	グループスタッフ	通園スタッフ	看護師	計
12	26	2	4	4	2	0	0	50

表5-10 児童の状況

(2020年度、単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小学校	中学校	高校生	計
知的障害										
自閉症		1	1	2	1	1				6
自閉症+知的障害				3	3					6
肢体不自由										
肢体不自由+知的障害							1			1
言語発達障害等										
重症心身障害							3			3
未決定			1	1		1				3
その他										
計		1	2	6	4	2	4			19

3 訪問療育指導

- ・ 下記の対象児童に対し、家庭環境や健康状態の把握や療育技術の指導、サービスのニーズの把握と調整等を目的に行った。
- ・ 重症児に対し、療育相談や遊びの経験を目的として複数回訪問した児童が2人あった。

〈対象児〉

- ・ 重症心身障害の児童
- ・ 児童相談所との連携が必要な児童
- ・ 医療的ケアが必要で、早期に福祉サービスが必要な児童
- ・ 通所が困難な児童
- ・ 早期受診の児童
- ・ 長期入院児童
- ・ 療育上家庭での指導が必要な児童

表5-11 訪問療育指導月別状況

(2020年度、単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	1		3	2		3	1	1	5	1	4	2	23
延べ人数	1		3	2		4	1	1	5	1	4	2	24

表5-12 訪問療育担当スタッフ

(2020年度、単位:人)

ケースワーカー・保健師	リハビリ	療育スタッフ(保育士)	看護師	相談支援専門員	計
17	6	0	11	10	44

表5-13 訪問療育児童の状況

(2020年度、単位:人)

診療区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	計
ダウン等染色体異常								
脳性麻痺(重心)	1	1	2	2				6
精神発達遅滞				1				1
自閉症			1	4	1			6
知的障害								
運動発達遅滞	1							1
計	2	1	3	7	1	0	0	14

- 注) (1) その他年齢:小学生まで
 (2) 脳性麻痺(重心)は水頭症を含む。
 (3) 年齢は学年齢である

4 通園部アフターケア

あそび虫クラブ

月に1回、土曜日の午前中に、そよ風を卒園して、特別支援学校または特別支援学級に在籍をしている学齢期の親子を対象に、様々なプログラムを実施した。今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、夏プログラムを中止し、6月~3月で子どもたちの興味や余暇を充実させることをねらいに、3つのサークルから選び行った。

小学校低学年は親子で様々な経験を広げることを目的に行った。

表5-14 リトルあそび虫(小学校低学年)

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
6/27	プールであそぼう	4組	11/28	パンづくり	4組
8/1	夏の思い出をつくろう	10組	1/23	リズムあそび	中止
9/12	リトル運動会をしよう	10組	3/13	いちご狩り	9組

・夏のデイキャンプは、中止した。

表5－15 小学4年生から高校3年生のサークル別

	太鼓サークル	ダンスサークル	陶芸サークル	備 考
6月	3	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスサークルは、6～9月は講師の都合によりプールを行う。 ・1,2月は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各プログラムを中止した。
7月	5	4	1	
8月	6	3	2	
9月	6	4	1	
10月	5	3	1	
11月	6	3	1	
12月	7	2	2	
1月	中止	中止	中止	
2月	中止	中止	中止	
3月	6	4	2	

長期休暇プログラム

例年企画している岐阜県郡上市小那比2泊3日キャンプとそよ風1泊2日プログラムは新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

5 アフターケア

例年行っている学校・保育園・幼稚園訪問は、コロナ感染予防のため中止し、以下の内容を行った。

表5－16

とりくみ	実施日	対 象	数	内 容
電話での状況確認	4月	転園・就学児	24名 1回	そよ風を卒園、転園したお子さんのコロナ禍での状況を電話にて確認。
18歳のつどい	2/27	2020年度 18歳を迎える子	中止 (13組予定)	これまでの療育歴や子育てを振り返り、18歳までの区切りとする予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、来年度へ延期した。
19歳のつどい	3/13	2020年度 19歳を迎える子	7組	新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、ズームで行う。クイズやビデオを見て、これまでの療育歴や子育てを振り返る機会にした。

6 そよ風広場

土曜日の午前中に、そよ風通園、デイサービス ACT、デイサービスみどりそよ風から転園した就学前の親子を対象に、様々なプログラムを企画し、親子で楽しく休日を過ごすことや、経験を広げることを大切に取り組んだ。また、保育園や幼稚園での悩みをお母さん同士が話せる場や、親御さん同士のつながりを大切に交流をした。

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
6/27	交流会 (19年度そよ風を転園された方)	7組	12/19	餅つき	9組
7/18	交流会 (19年度あいあい、みどりを転園された方)	6組	1/23	コマづくり	中止
9/12	交流会 (17,18年度そよ風を転園された方)	5組	2/20	パン作り (年長児のみ)	中止
10/12	交流会 (17,18年度あいあい、みどりを転園された方)	2組	3/6	凧あげ (前半、後半の2部制で行う)	8組
11/28	大高緑地芝滑り	8組			

* 2、3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各プログラムを中止した。

7 兄弟プログラム

2020年度通園部に通っている子ども及び、以前に通園部に通っていた小、中学生を対象とし、2ヶ月に1回集ってあそびなどのプログラムを行った。

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
7/18	風船バレー	13名	12/9	源平衛公園、ビンゴ大会	13名
8/1	夏の思い出作り	15名	2/20	おでかけにいこう!	中止
10/10	グラウンドゴルフ	12名			

8 施設・プール開放

- ・同法人内のデイサービス ACT、デイサービスみどりそよ風、発達センターあつた、活動センターねーぶるにも開放し、年62回のべ482名が利用した。
- ・そよ風に関わる小、中学生の親子を対象に木曜日にプール開放をし、のべ14名が利用した。今年度はコロナの関係で利用が少なかった。

9 地域啓発・ボランティア育成

- ・例年行っている、夏まつり、社会館バザーなど行事、千鳥学区なごやか給食会（老人給食）は新型コロナウイルス感染予防のため中止になる。同様に、ボランティア育成についても募集、参加は呼び掛け、受け入れを中止した。

第6 児童デイサービス

1 デイサービス ACT (児童発達支援事業所)

(1) あいあい組 (2歳児クラス) 利用状況

表6-1

(2020年3月末現在)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳 幼 児	契約数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
	開所日数	0	0	7	7	5	6	8	8	6	6	7	65
	利用者数	0	0	27	24	18	21	26	29	20	23	31	238
	平均利用	0	0	3.9	3.4	3.6	3.5	3.3	3.6	3.3	3.8	4.4	3.6

- ・週・週2回、(月、木)で実施。
- ・通園待機児3名と週2日療育を希望する4名の親子を対象とした。
- ・少人数での安心感から、どの子も継続して登園した。

(2) 児童の状況

表6-2 障害種別状況 (単位:人)

障害種別	人数
知的障害	2
知的障害+自閉症	0
自閉症+知的障害	1
知的障害+肢体不自由	
肢体不自由+知的障害	
重症心身障害児	
肢体不自由児	
自閉症	1
計	4

表6-3 手帳所持状況 (単位:人)

愛護手帳		身体障害者手帳		
1度	0	I 種	1級	0
2度	0		2級	0
3度	0		3級	0
4度	2	II 種	1級	0
未所持	2		2級	0
			3級	0
計	4			

表6-4 進路状況 (単位:人)

進路先	人数
児童発達支援センター	0
保育園(公立)	2
保育園(民間)	1
幼稚園	1
県外へ転居	0
合計	4

2 デイサービス ACT（放課後デイサービス）

対 象	緑区、南区内居住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学1年生 ～高校3年生
実 施 日	月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 … 14:30~17:30 土曜日（月1回） … 9:30~15:30

表6-5 登録児の利用状況

（2020年3月末現在）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約数	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336
開所日数	17	17	23	21	17	21	22	19	20	18	20	20	235
利用者数	107	103	155	154	112	158	152	128	145	133	134	144	1625
平均利用	6.3	6.0	6.7	7.3	6.6	7.5	6.9	6.7	7.2	7.4	6.7	7.2	6.9

表6-6

（単位：人）

曜 日	利用者 登録数	利 用 者 学 年											
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
月曜（中高生）	4	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0
火曜（小学生）	9	3	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0
水曜（小学生）	11	2	2	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0
木曜（中高生）	8	0	0	0	0	0	2	1	3	0	0	1	1
金曜（小学生）	10	3	2	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0
土曜（月1回）	10	1	1	3	1	0	1	1	1	0	0	1	0

長期休暇プログラム等の実施

- ・毎年取り組んでいる夏のキャンプは、新型コロナウイルス完成症拡大のため中止した。
夏のプログラムとして、2日間にかけてバーベキューと夏祭りを取り組んだ。
- ・春休みには、高校3年生1名の卒会記念として、いちご狩りと送る会を取り組んだ。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9:30~15:30にした。

3 みどりそよ風（児童発達支援事業所）

- ・2020年度は、希望者が1名であったため、あいあい組で受け入れをした。よって、2020年度デイサービスみどりそよ風での児童発達支援は未実施。

4 みどりそよ風（放課後等デイサービス）

対 象 緑区、南区内居住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学1年生
～中学3年生

実 施 日 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 … 14:30～17:30
土曜日（月1回） … 9:30～15:30

表6-7 登録児の利用状況

（2020年3月末現在）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約数	26	27	27	27	29	29	29	30	30	31	31	31	347
開所日数	18	18	23	22	17	21	22	19	20	18	19	20	237
利用者数	65	92	128	140	100	151	146	120	144	119	130	140	1475
平均利用	3.6	5.1	5.7	6.4	5.9	7.2	6.6	6.3	7.2	6.6	6.8	7	6.2

表6-8

（単位：人）

曜 日	利用者 登録数	利 用 者 学 年									
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
月 曜	10	3	0	2	2	2	1	0	0	0	
火 曜	9	5	1	2	1	0	0	0	0	0	
水 曜	9	4	2	2	1	0	0	0	0	0	
木 曜	9	1	1	3	1	2	1	0	0	0	
金 曜	6	1	0	3	0	1	0	0	1	0	
土曜(月1回)	11	1	1	2	1	0	4	1	1	0	

長期休暇プログラム等の実施

- ・毎年取り組んでいる夏のキャンプは、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止した。
夏のプログラムとして、夜のお楽しみ会（バーベキュー、花火）に取り組んだ。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9:30～15:30にした。

第7 障害児相談支援事業所

障害児相談支援事業所そよ風

表7-1 管理数

(2020年度、単位：人)

居住区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児	8歳児	9歳児	10歳児	合計
南区	2	5	12	9	7	4	7	7	6	3	2	64
緑区		18	15	25	39	9	17	10	17	6	2	158
港区				1					2			2
計	2	23	27	35	46	13	24	17	25	9	4	224

表7-2 支援実績

(2020年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画作成	7	3	9	9	6	11	3	11	15	9	10	13	106
本計画作成	68	26	14	15	17	15	18	5	10	12	11	15	226
モニタリング	11	8	15	12	3	13	13	11	10	2	0	11	109
家庭訪問	23	16	48	37	17	32	23	38	40	13	0	39	326

表7-3 基本相談

(2020年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
家庭訪問		1	5			1	3	5	1			5	21
来所	8	8	10	4	4	3	1	2	6	5	17	10	78
その他	37	13	26	16	7	12	15	9	16	6	19	17	193

表7-4 基本相談の内容

(2020年度、単位：件)

サービス利用等	子どもの発達・障害	子育て	幼・保・学校など	家族	子どもの余暇等	その他
238	14	141	72	50	8	11

表7-5 会議等

(2020年度)

	開催日	構成メンバー	参加職員
障害児相談支援運営連絡会	2020. 8.28	名古屋市 中央療育センター 各地域療育センター 各児童発達支援センター あけぼの学園 基幹相談支援センター (ブロック代表)	相談支援専門員
南区自立支援連絡協議会 相談支援連絡会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 南区役所福祉課 南保健センター 南区社会福祉協議会	相談支援専門員
緑区自立支援連絡協議会 相談部会定例会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 緑区役所福祉課 緑保健センター	相談支援専門員
ケース会議・サービス調整会議	7回 必要に応じて開催・参加	関係機関	相談支援専門員

資料 センター利用者数の10年間の推移（2011年度～2020年度）

新規相談件数（区別）

（単位：件）

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
南 区	114	97	118	118	103	105	127	126	144	111
緑 区	235	258	278	342	273	290	327	291	284	309
熱田区	45	43	44	10	0	0	0	0	0	0
港 区	11	5	9	5	9	5	7	7	4	2
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	407	403	450	475	385	400	461	424	432	422

新規相談件数（年齢別）

（単位：件）

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
0 歳	17	23	12	13	16	23	13	16	12	12
1 歳	45	41	38	50	33	28	47	47	42	47
2 歳	142	120	132	148	113	87	154	127	143	151
3 歳	93	112	149	158	113	135	132	115	121	97
4 歳	52	50	53	43	49	58	56	59	53	55
5 歳	36	33	51	51	53	51	42	49	46	48
6 歳	22	23	13	12	8	18	13	11	15	12
小学校低学年	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0
小学校高学年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	407	403	450	475	385	400	461	424	432	422

継続相談延べ件数

（単位：件）

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
件 数	918	986	1063	1175	1123	1137	1063	1000	1010	1033

療育グループ延べ参加人数

（単位：人）

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
就園前グループ	3456	3970	4132	3760	3860	3172	2960	3411	2797	1824
並行グループ	494	450	585	679	564	581	561	397	412	381
計	3950	4420	4717	4439	4424	3753	3521	3808	3209	2205

小児科診察件数

(単位：件)

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
初 診	407	403	450	475	385	400	461	424	432	422
再 診	202	201	255	262	321	362	453	563	563	749
計	609	604	705	737	706	762	914	987	995	1171

整形外科科診察件数

(単位：件)

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
初 診	58	57	74	47	47	55	51	44	45	44
再 診	1262	1094	988	922	900	587	972	538	564	525
計	1320	1151	1042	969	947	642	993	582	609	569

精神科診察件数

(単位：件)

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
初 診	6	11	9	12	4	4	4	4	2	2
再 診	79	50	42	71	75	55	69	77	57	64
計	85	61	51	83	79	59	73	81	59	66

耳鼻科診察件数

(単位：件)

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
初 診	206	215	156	217	184	149	90	190	145	113
再 診	474	587	478	488	442	274	178	223	262	125
計	680	802	634	705	626	423	268	413	407	238

理学療法訓練延べ件数

(単位:件)

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
件 数	3052	2915	2891	2531	2436	2411	2239	1953	1935	1983

作業療法訓練延べ件数

(単位:件)

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
件 数	1100	1607	1832	1802	1605	1849	1689	1691	1425	1400

言語聴覚療法訓練延べ件数

(単位:件)

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
件 数	1382	1780	1678	1301	1813	1532	1866	2034	1578	1538

巡回療育実施件数(職員派遣数)

(単位:人)

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
件 数	122	137	140	124	140	115	125	109	111	50

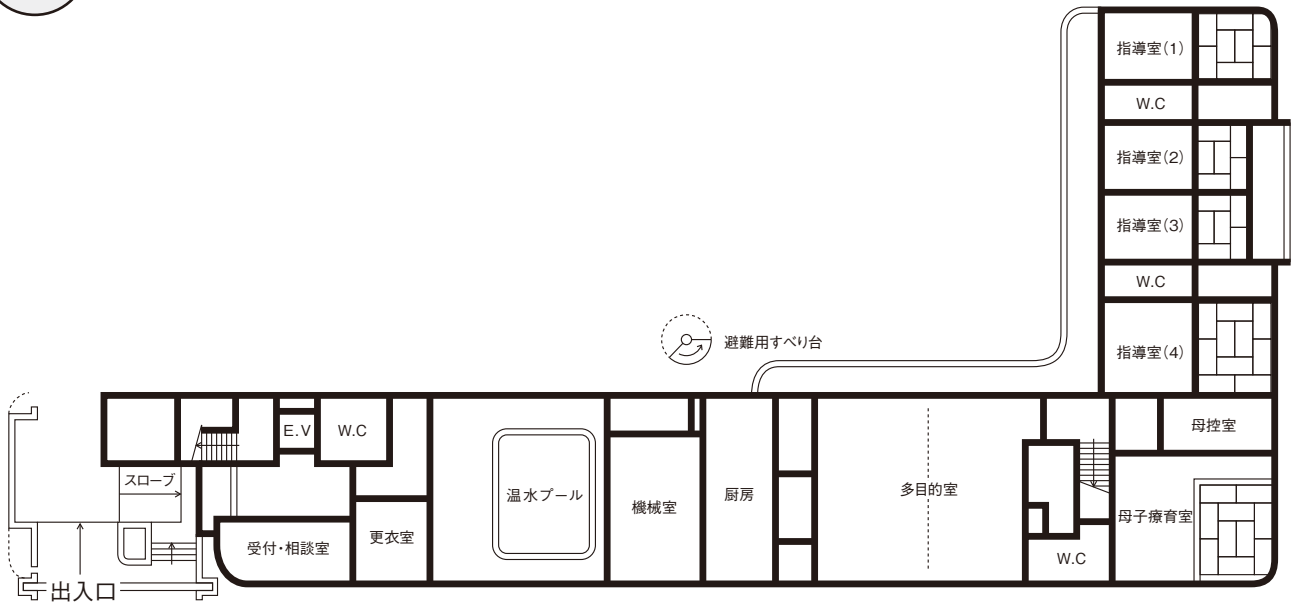
訪問件数

(単位:件)

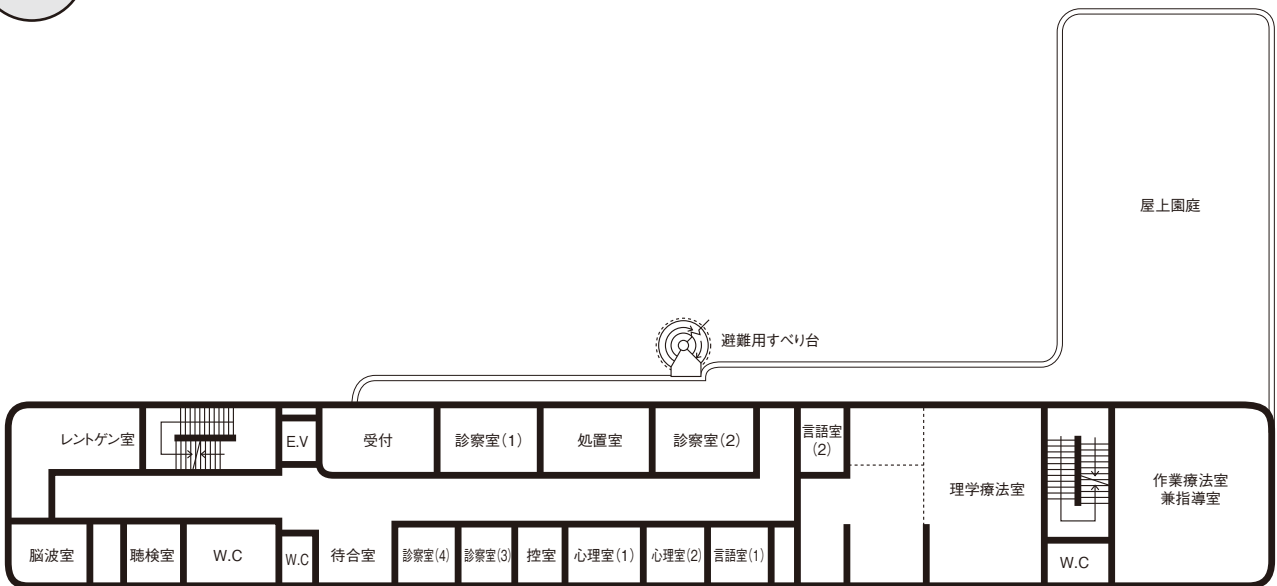
年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
回 数	23	17	19	26	14	10	21	22	9	24

平面図

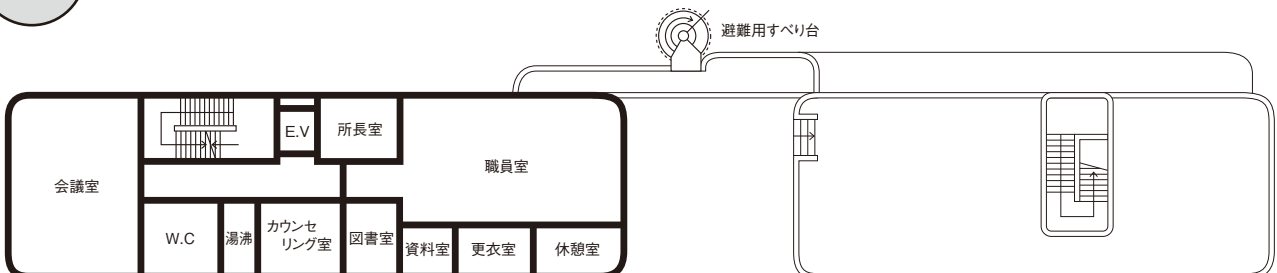
1階

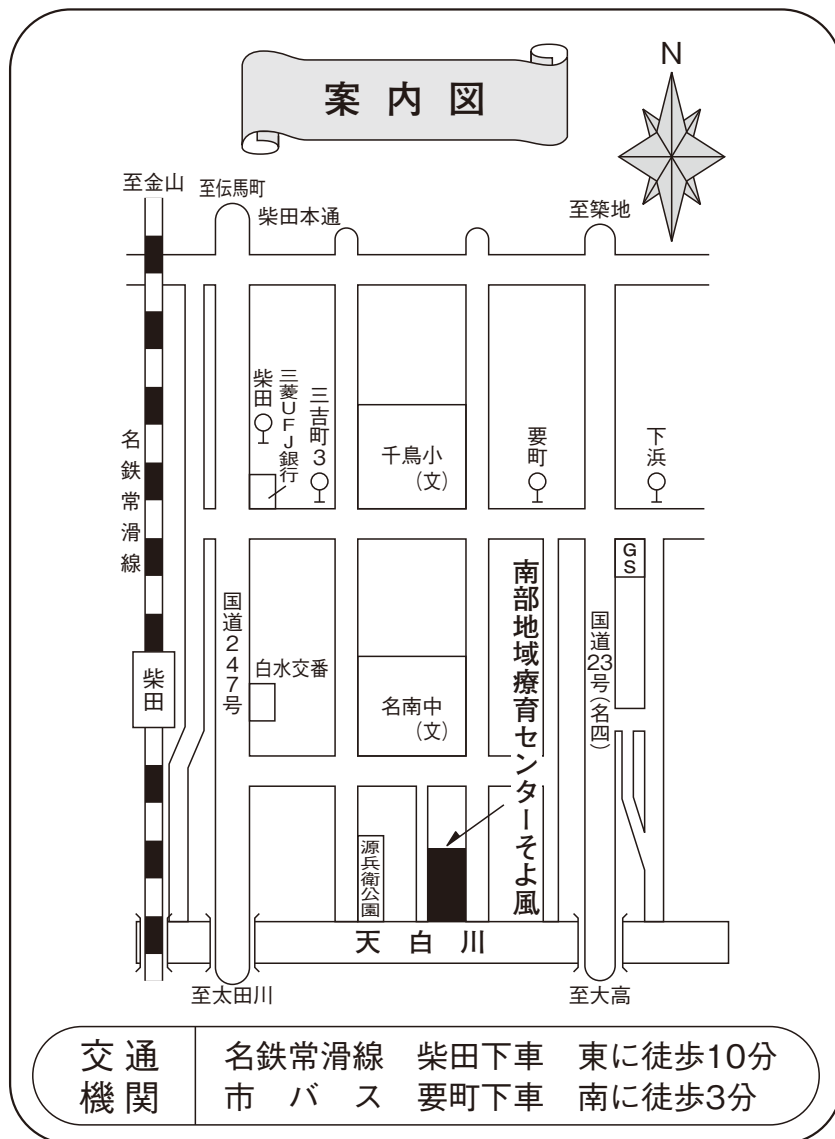


2階



3階





2021年7月発行

発行者 社会福祉法人名古屋キリスト教社会館
南部地域療育センターそよ風
 〒457-0805 名古屋市南区三吉町6-17
 TEL 052(612)3357・FAX 052(612)3411

南部地域療育センターそよ風は、
すべての子どもの成長発達を願い
早期療育、地域療育をすすめます。